



日産化学株式会社

2025年3月期 本決算および経営計画説明会

説明者

代表取締役 取締役社長 COO

八木 晋介（以下、八木）

取締役副社長 CFO

大門 秀樹（以下、大門）

取締役 常務執行役員 経営企画部長

松岡 健（以下、松岡）

2025年5月15日

八木：皆さん、こんにちは。社長の八木でございます。それでは、本年4月からスタートした3カ年の中期経営計画 Vista2027 Stage II について説明します。

Vista2027 Stage I(2022-24年度) 総括 損益および経営指標



	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2024年度 前年度比	2024年度 旧中計 (2022/5開示)	
	①	②	③	④	⑤=④/③-1	⑥	
(億円)							
収益性	売上高	2,080	2,281	2,267	2,514	+11%	2,550
	営業利益	510	523	482	568	+18%	585
	経常利益	537	558	516	580	+12%	595
	純利益	388	411	380	430	+13%	440
	EBITDA*1	612	633	620	712		
	売上高営業利益率	24.5%	22.9%	21.3%	22.6%		Stage I 目標 20%以上
	EPS(円/株)	271.88	291.36	272.82	313.26		
資本効率・ 財務健全性	ROE	19.2%	19.4%	17.1%	18.7%		18%以上
	自己資本比率	73.6%	73.1%	70.3%	70.5%		
	ネットD/ELレシオ*2	-0.06倍	-0.01倍	0.09倍	0.06倍		
株主 還元	配当性向	44.9%	56.3%	60.1%	55.5%		55%以上
	総還元性向	75.6%	78.0%	86.2%	82.0%		75%以上
為替レート(円/ドル)	112	136	145	153		全て達成	

*1: EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 *2: ネットD/ELレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 株主資本

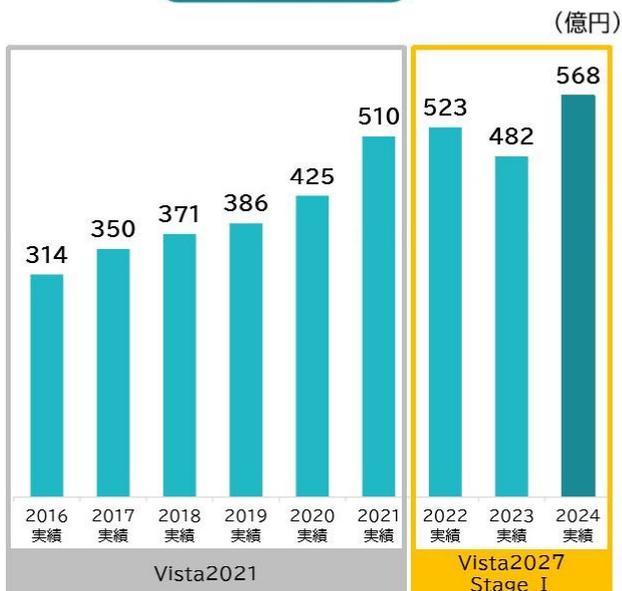
© 2025 Nissan Chemical Corporation | 3

まず、Stage I の総括です。Stage I の業績ですが、最終年度である 2024 年度の実績は売上高 2,514 億円、前年比プラス 11%、営業利益 568 億円、前年比プラス 18%となりました。営業利益、経常利益、純利益、全てで過去最高益を更新しました。

また、経営指標の目標として掲げていた売上高営業利益率、ROE、配当性向、総還元性向は全てで目標を達成しました。

営業利益は、毎年過去最高益を更新(2023年度を除く)
機能性材料、農業化学品が業績を牽引

営業利益推移



営業利益構成 2016年度 vs 2024年度



© 2025 Nissan Chemical Corporation | 4

次のスライドでは、当社が重視している営業利益について説明します。

営業利益の推移を左のグラフで示していますが、コロナによる半導体特需の反動があった2023年度を除き毎年最高益を更新し続けています。

右のグラフに、2016年度と2024年度の営業利益構成を載せていますが、2016年度からの9年間で機能性材料は営業利益を2.3倍、農業化学品は1.9倍に増加させており、機能性材料と農業化学品が業績をけん引しました。

積極的な設備投資を実施、成長分野における製品の供給体制を強化

Nissan Bharat Rasayan PVT. LTD. 農薬原体工場

工場所在地	インド グジャラート州サイカ
事業内容	農薬原体の製造、販売
商業稼働	2022年度
投資額	60億円(概数)



NCK Co., Ltd. 半導体材料工場

工場所在地	韓国 忠清南道唐津市松山2産業団地
事業内容	半導体用材料の製造、販売
商業稼働	2024年度
投資額	90億円(概数)



© 2025 Nissan Chemical Corporation | 5

続きまして Stage I での成果についてです。

Stage I の3年間において、数多くの施策を実行してきました。その一つが成長のための積極的な投資です。インドにおいては農薬原体工場を新設、韓国においても半導体材料工場を新設しており、今後も成長が期待できる分野における製品の供給体制を強化しました。Stage I において計画したさまざまな施策は着実に実行しており、多くの成果を得ることができたと考えています。

Vista2027 Stage II(2025-27年度) 損益および経営指標

	(億円)	2024年度 実績	2027年度 中計*1	2025-27年度 目標	2027年度 -2024年度	CAGR
		①	②		②-①	
収益性	売上高	2,514	2,930		+416	5%
	営業利益	568	650		+82	5%
	経常利益	580	655		+75	4%
	純利益	430	480		+50	4%
	EBITDA*2	712	834		+122	5%
	売上高営業利益率	22.6%	22.2%	20%以上	-	-
	EPS(円/株)	313.26	366.28		53.02	5%
資本効率・ 財務健全性	ROE	18.7%	18.5%	18%以上		
	自己資本比率	70.5%	71.9%			
	ネットD/ELレシオ*3	0.06倍	0.05倍			
株主 還元	配当性向	55.5%	55.0%	55%以上		
	総還元性向	82.0%	75.0%	75%以上		
	為替レート(円/ドル)	153	140			

*1: 中計数値には将来の戦略投資(M&A)による影響は含まない。以下全てのページで同様。

*2: EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 *3: ネットD/ELレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 株主資本

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 7

次に Vista2027 Stage II についてです。

まず、損益および経営指標についてです。為替の前提は、1ドル140円で設定していますが、Stage II 最終年度となる2027年度において売上高2,930億円、営業利益650億円を計画します。2024年度実績との比較では売上高プラス416億円、営業利益プラス82億円となります。ROEは18.5%、その他の計画数値、指標は記載のとおりであります。

経営指標の目標は Stage I から変更しておらず、売上高営業利益率20%以上、ROE18%以上となります。株主還元については次のスライドで説明します。

配当性向55%以上、総還元性向75%以上
安定的・継続的配当と機動的な自己株式取得により、積極的な株主還元を継続



株主還元について Stage I 同様、配当性向 55%以上、総還元性向 75%以上と引き続き高い水準を維持します。青の折れ線で 1 株当たり配当額を示していますが、過去から継続的に伸ばしてきており、今後も EPS 成長に合わせて増額していきます。配当は安定的・継続的を原則とし、自己株式取得についても機動的に実施していきます。

経営計画スローガン

価値共創で未来に挑む企業へ

方針

持続的な成長、安定収益の礎を築く

基本戦略

現有事業の利益拡大

成長分野の強化

- 半導体、農業化学品へ資源を集中投下
- 次世代材料・新剤の開発
 - ・半導体:実装材料、EUV材料など
 - ・農業化学品:バイオ農薬、新規動物薬など
- 戦略投資(M&A)の積極活用

A系製品の収益性改善

- 固定費の圧縮
(2024年度 減損計上済)
- コストダウンの継続実施
- 外部製造委託の活用
- 不採算製品の販売中止

2030年を見据えた 新製品の開発

- Go/Stopの迅速化
- ターゲット材料の明確化
- 戦略投資(M&A)の積極活用

事業基盤の強化

- | | | |
|---|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ 人材育成の強化 ➢ 研究開発基盤および機能の拡充 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ デジタル基盤の拡充 ➢ 知的財産の活用強化 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ ガバナンス・コンプライアンスの強化 ➢ サステナビリティの向上 |
|---|--|--|

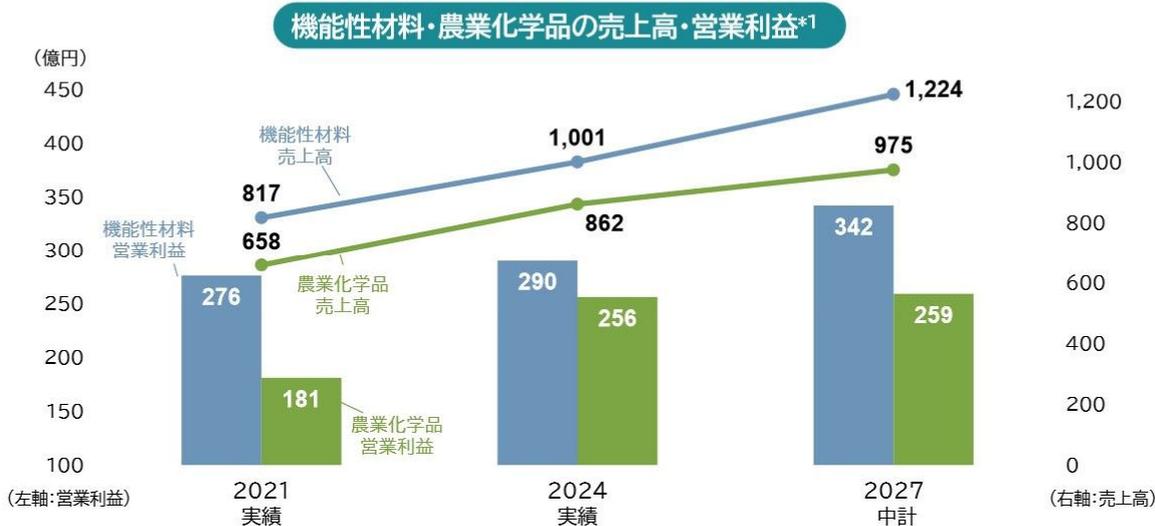
© 2025 Nissan Chemical Corporation | 9

続いて、Stage IIにおける方針と基本戦略を説明します。

Vista 2027 では Stage I、Stage II 共通でスローガン「価値共創で未来に挑む企業へ」を掲げていますが、Stage II の方針として「持続的な成長、安定収益の礎を築く」を新たに設定します。短期的な成長をしっかりと確保しつつ、その先を見据えた成長のための戦略を着実に実行していきます。

戦略は三つ設定しており、現有事業の利益拡大、2030 年を見据えた新製品の開発、事業基盤の強化であります。それぞれの戦略について、別スライドで説明します。

機能性材料は、半導体材料を中心に拡販 & 次世代材料の開発に注力
農業化学品は、海外市場での販売エリア拡大 & 新剤、動物薬、バイオ農薬の開発を加速



動物薬では、MAH社*2とのフルララネルの長期供給契約を延長
新規動物用医薬品創出へ向けた共同研究開発を開始(2025/4/11リリース)

*1: 2025年度より新方式セグメント別営業利益

(DX費用および企画本部の一部費用について、旧方式では各セグメントに配賦していたが、新方式では各セグメントに配賦せず調整額で一括処理)

*2: 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門のMSD Animal Health 社の略称

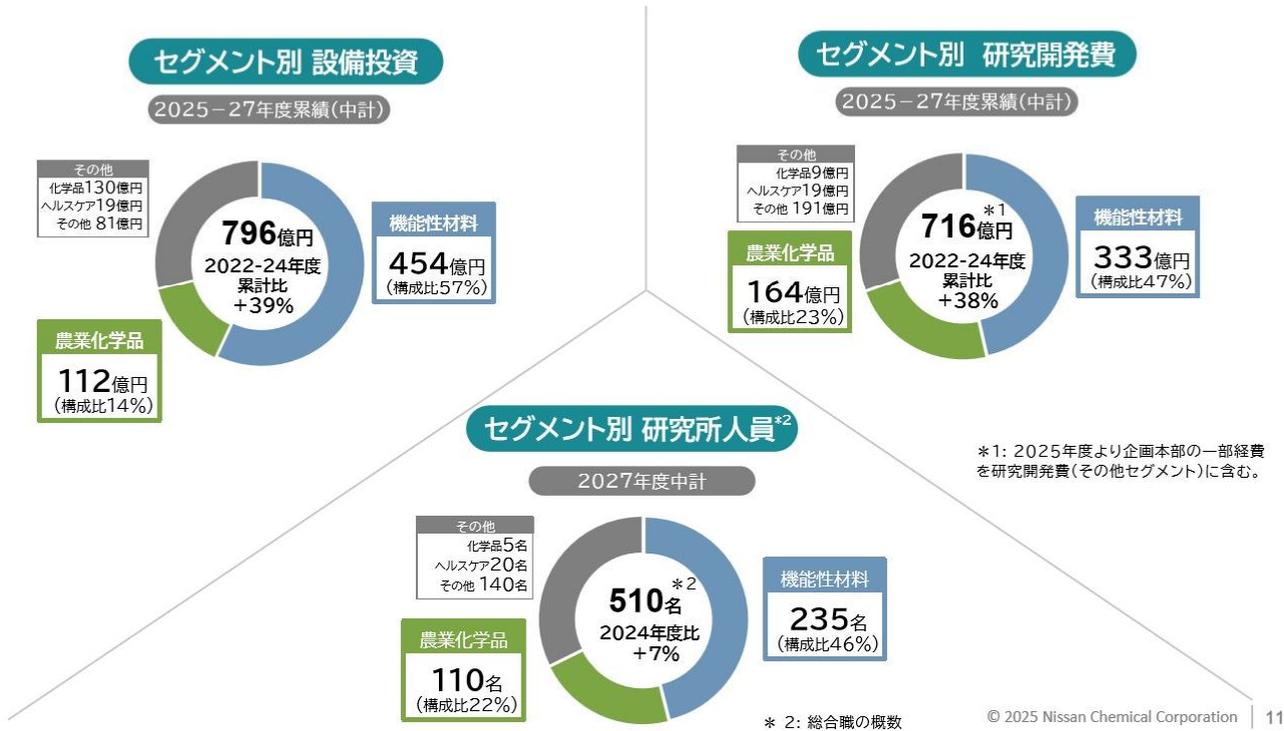
© 2025 Nissan Chemical Corporation | 10

第1の戦略、現有事業の利益拡大では、成長分野の強化を実施します。当社では機能性材料、農業化学品を成長分野と位置づけており、この二つの事業をより強固なものにしていきます。グラフは二つの事業における2027年度計画と過去実績を示しています。

Stage IIにおいて、機能性材料では、半導体材料を中心に拡販するとともに、次世代材料開発、顧客からの採用獲得に注力し、売上利益を伸ばしていきます。農業化学品では、海外市場での販売エリア拡大により売上を伸ばすとともに、農薬新剤、動物薬、バイオ農薬の開発を加速させ、高い利益水準を維持します。

動物薬については、本年4月11日にリリースしたとおり、MAH社とのフルララネルの長期供給契約を延長したことに加え、新規動物薬創薬に向けた共同研究開発を開始しています。

機能性材料、農業化学品へ経営資源を集中投下し、利益を最大化



次に、成長分野を強化するための施策ですが、機能性材料、農業化学品に経営資源を集中投下します。セグメント別の設備投資、研究開発費、研究所人員をお示ししていますが、いずれにおいても機能性材料、農業化学品に70%前後の経営資源を割り当てます。

なお、研究開発費と研究所人員のその他を見ていただくと、大きな金額、人員となっていますが、この大部分が企画本部であり、新製品、新事業創出のための研究開発費、研究人員となります。

Vista2027 Stage II(2025-27年度)
 (参考)セグメント別 設備投資額・減価償却費・研究開発費・研究所人員



	(億円)		(億円)		(億円)		(人)	
	設備投資		減価償却費		研究開発費*1		研究所人員*2	
	2022-24年度 累計(実績)*4	2025-27年度 累計(中計)*5	2022-24年度 累計(実績)	2025-27年度 累計(中計)	2022-24年度 累計(実績)	2025-27年度 累計(中計)	2024年度 実績	2027年度 中計
化学品	128	130	81	105	9	9	5	5
機能性材料	227	454	172	244	241	333	200	235
農業化学品	151	112	91	109	131	164	105	110
ヘルスケア	15	19	12	17	14	19	15	20
その他*3	51	81	36	55	122	191	150	140
合計	572	796	392	530	517	716	475	510

2025-27年度 主要な設備投資(億円)

機能性材料: 半導体工場設備・機器 148、半導体研究設備・機器 84、無機コロイド工場設備・機器 26

その他: DX関連投資 22

*1: 2025年度より企画本部の一部経費を研究開発費(その他セグメント)に含む。

*2: 総合職の概数 *3: 企画本部、卸売、その他、調整額 *4: キャッシュ・フローベース *5: 稼働開始ベース

こちらのページでは、セグメント別の設備投資額などを Stage I と比較していますので、後ほどご確認ください。

2027年度中計				2030年度イメージ			
		10億円未満	10億円以上	合計*4	10億円未満	10億円以上	30億円以上
化学品	●ファインケミカル	FO(新グレード)		6億円	FO(新グレード)		
		スターファイン			スターファイン		
機能性材料	●ディスプレイ	ハードコート材		113億円	ハードコート材		次世代EL材料
		調光フィルム			調光フィルム		
		透明PI			透明PI		
		光VA			光VA		
		次世代EL材料					
	●半導体		三次元実装材料				三次元実装材料
			EUV材料				EUV材料
	●無機	新規オルガノシリカソル		113億円	新規オルガノシリカソル		
		高屈折材料			高屈折材料		
	●その他	CIS*2関連			CIS*2関連		
農業化学品		NC-520(殺虫剤)	ベルダー	96億円		クインテック*3	ベルダー
		NC-656(除草剤)	ダイセン*3			NC-520(殺虫剤)	NC-656(除草剤)
			クインテック*3				ダイセン*3
ヘルスケア	●ファインテック	新規原薬	エルデカルシトール	24億円	新規原薬	エルデカルシトール	
		ペプチド受託				ペプチド受託	
合計239億円							

*1: 2019年度以降に販売開始の製品等(サンプル出荷含む)

*2: CIS(CMOS Image Sensor,シーモスイメージセンサ) *3: 他社からの買収剤 *4: 記載の主要製品等以外含む

合計239億円

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 13

次に、現有事業での次世代材料、新剤の売上高についてです。

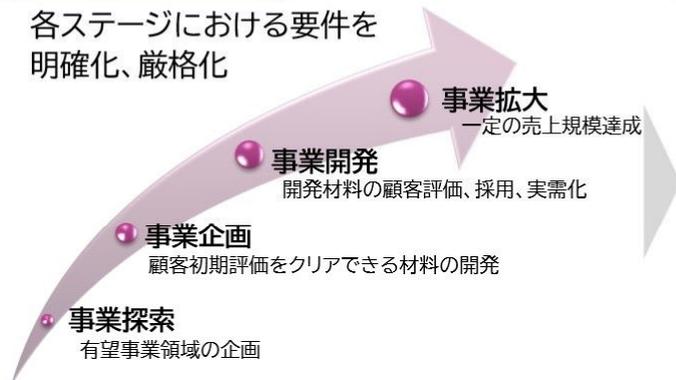
この中に企画本部は含まれておりません。これら製品の2024年度の売上高は約110億円でしたが、2027年度には239億円へと2倍以上に増やす計画であります。また、2030年度の売上高イメージも載せていますが、ディスプレイでは次世代EL材料、半導体では三次元実装材料、EUV材料、農業化学品ではベルダーや現在開発中の除草剤NC-656を伸ばしていきます。

第1の戦略、現有事業の利益拡大の説明は以上になります。第1の戦略では、成長分野の強化に加え、化学品事業の収益性改善についても取り組んでいきますが、後ほど松岡経営企画部長のパートでご説明いたします。

Go/Stopの迅速化、組織再編によるターゲットの明確化により、選択と集中を加速

Go/Stopの迅速化

各ステージにおける要件を
 明確化、厳格化



ターゲットの明確化



新製品売上高*3

2030年度 イメージ

	10億円未満	10億円以上	30億円以上
企画本部	ライフサイエンス	情報通信	環境エネルギー

*1:SA(Slurry Additives, スラリー添加剤) *2:PSC(Perovskite Solar Cells, ペロブスカイト太陽電池)
 *3: 2019年度以降に販売開始の製品等(サンプル出荷含む)

次に第2の戦略、2030年を見据えた新製品の開発について説明します。

現有事業に属さない新製品は企画本部が担当していますが、Stage IIでは新製品開発におけるGo/Stop判断を迅速化し、ターゲットをより明確化することで選択と集中を加速します。

具体的には、事業探索から事業拡大の各段階において社外有識者の意見も取り入れながら、Go/Stopの要件を従来にも増して明確化、厳格化することで有望なテーマにより多くのリソースを当て、開発の加速、成功確率の向上を図ります。

また、ターゲットを明確化するため、本年4月1日付で企画本部の組織を再編し、開発テーマ別にグループ、チームを新設しました。

企画本部の新製品売上高について、2030年度のイメージを載せています。今後、M&Aを含めた戦略投資を積極的に実施し、新たな製品、技術の獲得や新製品開発期間の短縮を図り、2030年以降の成長につなげていきたいと考えています。

ここから3ページは企画本部の主な開発品を載せていますので、後ほどご確認ください。

次の成長ドライバーとなる製品を開発



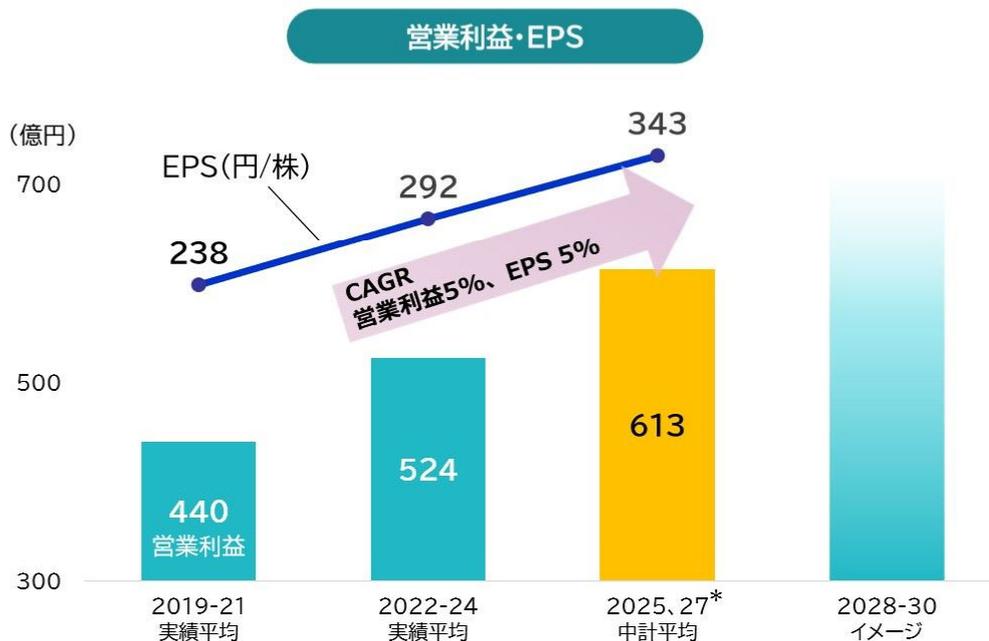
*: 2019年度以降に販売開始の製品等(サンプル出荷含む)

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 18

現有事業の次世代材料、新剤と企画本部の新製品を合わせた売上高をグラフにお示ししています。Stage IIの期間はもちろんのこと、2030年、その先を見据えて、次の成長ドライバーとなる製品の開発を行っていきます。

Vista2027 Stage II(2025-27年度) 2027年以降の成長

Stage IIの3年間に於いて、持続的な成長、安定収益の礎を築く
(2025、27年度平均* CAGR(2022-24年度平均比): 営業利益 5%、EPS 5%)



*: 2025年度、2027年度の2期単純平均

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 19

話を全体的な成長に戻します。このグラフは、3年平均の営業利益とEPSの伸びを示したものです。

Stage IIにおける前3年平均比CAGRは営業利益、EPSともに5%を計画します。さらに2027年度以降を見据えた新製品開発を通じ、その先の持続的な成長、安定収益を獲得していきます。

グループ全体の持続的な成長を支える事業基盤を強化

ガバナンス・コンプライアンス・サステナビリティ

- ・ガバナンス向上およびコンプライアンス体制強化
- ・レスポンスフル・ケア活動徹底
- ・品質保証体制強化

人材育成

- ・経営者・マネージャー層強化
- ・グローバル人材、DX人材およびデータサイエンティスト育成
- ・キャリア開発支援、タレントマネジメント強化

研究開発基盤・知的財産

- ・半導体材料研究2拠点化
- ・最先端技術活用による解析基盤強化
- ・Product Lifecycle Management システム導入
- ・IPランドスケープによる事業支援

IT・DX

- ・デジタル基盤拡充
- ・セキュリティツール導入
- ・インフォマティクスの素材・材料探索への活用



2027年度 非財務指標目標

当社マテリアリティ

日産化学サステナブル

アジェンダ

社会課題解決に貢献する製品・サービスの全売上に占める割合

60%以上

(55%以上維持より上方修正)

(2024年度実績 55%以上維持)

人材の確保・育成

人材育成に関する社員意識調査肯定回答率

65%以上

(2024年度実績 60%)

ダイバーシティ推進

研究所女性総合職比率

18%以上

(2024年度実績 18.5%)

GHG排出量削減目標

2018年度比

30%以上削減

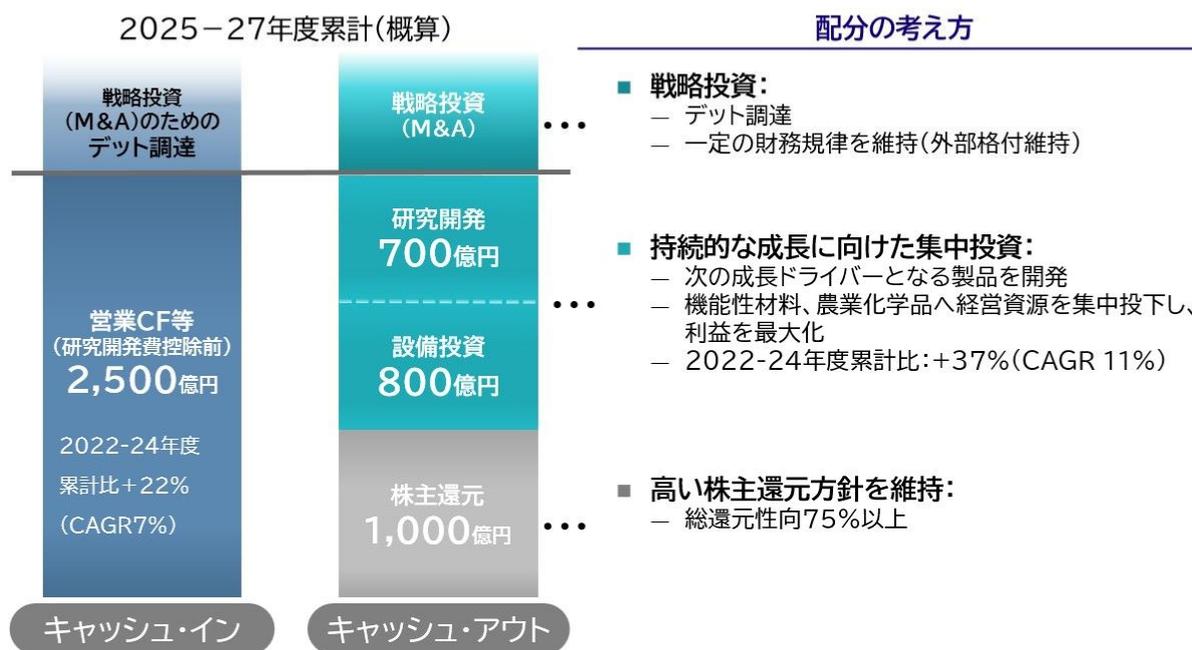
(2024年度暫定値 22%削減)

続いて第3の戦略、事業基盤の強化についてです。

図は当社の事業基盤の概要を示したものになります。図の下に配置したガバナンス・コンプライアンス・サステナビリティは最重要と考えており、これらを強化するとともに、円のグラフの中にある人材育成、研究開発基盤・知的財産、IT・DX、これらの強化、活用に取り組みます。

事業基盤の強化に関しては、幾つかの項目でKPIを定めており、右の枠内に目標として示しています。日産化学サステナブルアジェンダ、これは連結売上高に占める社会課題解決に貢献する製品・サービスの割合になりますが、Stage Iの際に設定した55%以上維持から60%以上へと目標を高めます。その他の非財務指標目標はStage Iから変更ありません。

着実なCF創出、持続的な企業価値向上に向けた戦略的キャピタルアロケーション



最後に、キャピタルアロケーションです。

2025年度から2027年度の3年間における営業CF等は約2,500億円を計画しています。着実にキャッシュ・フローを創出し、そのキャッシュを株主還元へ約1,000億円、研究開発・設備投資に合わせて1,500億円を割り当て、企業価値の向上を図っていきます。

なお、戦略投資(M&A)のための資金調達は2,500億円の中には含まれておりません。必要に応じてデットにより調達しますが、外部格付けを維持する水準を確保します。

私からの説明は以上となります。

当社グループではStage IIの計画、目標を達成し、その後の持続的な成長、企業価値向上を確かなものとするため社内外の力を結集し、情熱を持って挑み続けます。これからもステークホルダーの皆さまのご期待に応えるため、総力を挙げてまい進してまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

松岡：松岡でございます。それでは中期経営計画 Vista 2027 Stage II の基本戦略、現有事業の利益拡大におけるセグメント別の方針と施策について説明をします。

Vista2027 Stage II(2025-27年度)

機能性材料セグメント 方針と施策



半導体材料、無機コロイド材料のシェア維持・拡大 & 資源を集中投下し、次世代材料の開発を加速

損益、ROIC



*:2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

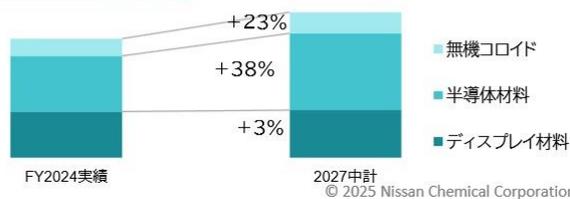
方針・施策

- 半導体材料に資源を集中投下、シェア維持・拡大
- ディスプレイ材料のシェア維持、次世代材料の投入
- スノーテックス(電材向け)の増販
- M&Aなどを活用し、自前主義から脱却

次世代材料

- 半導体新規実装材料、EUV材料の開発
- 次世代EL材料の開発
- 新規オルガノシリカゾルの開発

サブセグメント 売上高



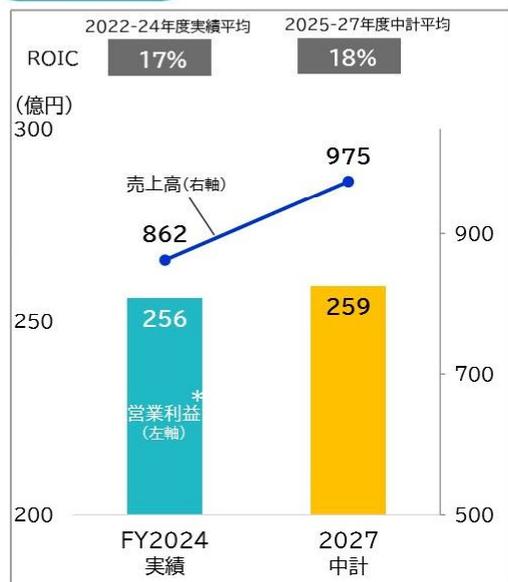
© 2025 Nissan Chemical Corporation | 23

機能性材料セグメントでは、既存製品の販売シェア維持拡大および次世代材料投入により、2027年度の数値目標として売上高1,224億円、営業利益342億円、2024年度対比で223億円の増収、52億円の増益を計画しています。

また、経営資源を集中投下し、半導体新規実装材料、EUV材料、次世代EL材料、新規オルガノシリカゾルの開発に注力します。

農薬は、国内市場シェアNo.1堅持、海外市場への拡販 & 資源を集中投下し、新剤、新規動物薬、バイオ農薬の開発を加速

損益、ROIC



*:2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 24

方針・施策

- 国内農薬は新剤投入によりシェアを維持・拡大し、市場シェアNo.1を堅持
- 海外農薬はエリアを拡大し拡販
- 動物薬原薬の安定供給
- M&Aを積極活用

新剤・新製品開発

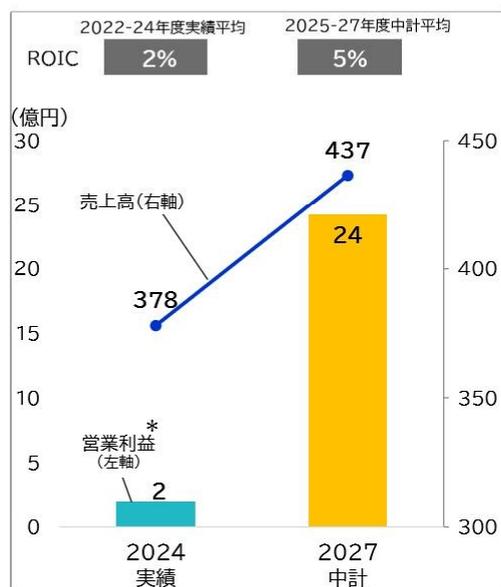
- 新剤(除草剤ベルダー、除草剤NC-656、殺虫剤NC-520)開発、上市
- 新規動物薬の開発
- バイオ農薬・農業資材の開発
- パイプラインの拡充、早期ステージアップ

農業化学品セグメントにつきましては、国内市場では新剤投入による販売シェア No.1 の維持、海外市場では販売エリア拡大により、2027 年度の数値目標として売上高 975 億円、営業利益 259 億円を掲げています。

また、機能性材料同様、経営資源を集中投下し、新規除草剤、殺虫剤、動物薬に加え、バイオ農薬・農業資材の開発を推進します。

ア系製品の収益性改善、半導体向け高純度硫酸の増販により、営業利益率を向上

損益、ROIC



*:2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 25

方針・施策

- アンモニア系製品の収益性改善(次ページ参照)
- 半導体需要増に伴う高純度硫酸の増販
- 原燃料価格、運賃等コストアップに対する販売価格の改定
- 2027年度において、営業利益率5%以上確保
- ファインオキシコール、スターファインの普及拡大、供給体制の確立

他事業とのシナジー

- 高度な技術・知識を必要とするア系プラントの運営は、生産技術人材の育成および当社グループ全体の製造プロセス差別化に貢献

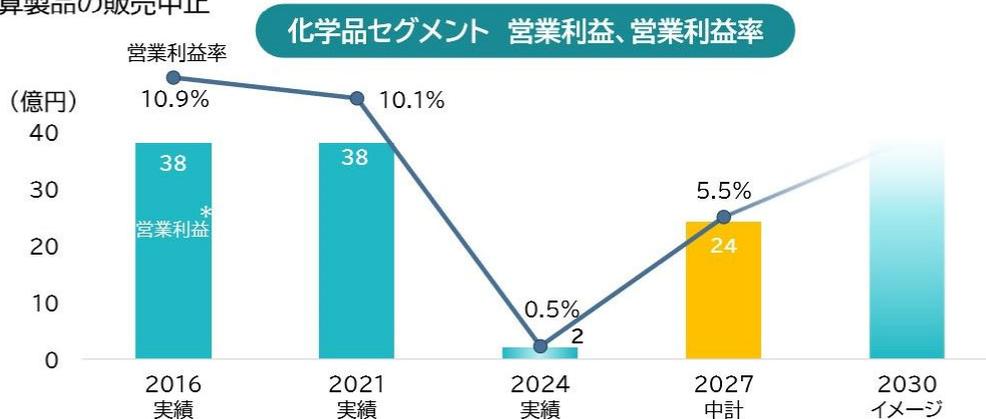
化学品セグメントでは、次のスライドで説明するアンモニア系製品の収益性改善および高純度硫酸の増販により、2027年度の数値目標を売上高437億円、営業利益24億円としています。アンモニア系プラントの運営は高度な生産技術が必要とされるため、生産技術人材の育成の機会であるとともに、当社グループ全体の製造プロセスの差別化に貢献しておりますので、これからも技術力を磨いてまいります。

2027年度以降、営業利益率5%以上の安定収益を確保する体制へ

方針・施策

2025-30年度累計で40~50億円の固定費・変動費減
(減損(2024年度 28億円計上済)による減価償却費減を含む)

- 固定費圧縮、コスト削減策の継続実施
 - テピック製造設備の生産能力半減
 - 原料ソースの多様化
- 外部製造委託の活用による設備投資適正化
- 不採算製品の販売中止



*: 2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 26

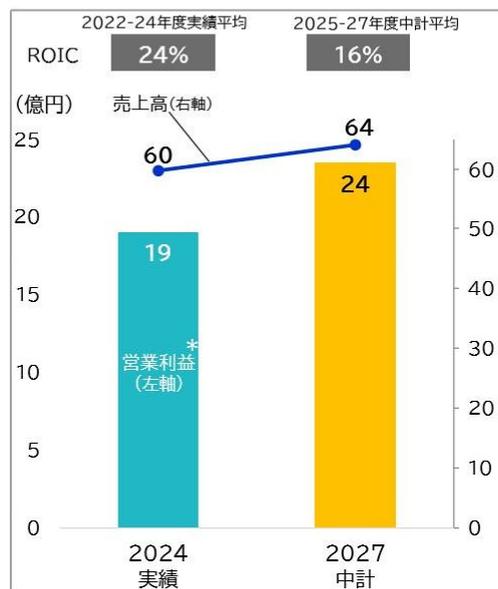
それでは、アンモニア系製品の収益性改善について説明をします。

営業利益率につきましては、2024年度は0.5%という結果となりましたが、2025年度から2030年度までの累計で減損による減価償却費減少を含め、40億円から50億円の固定費・変動費削減に取り組み、2027年度は5.5%を計画しています。

具体的には、テピック製造設備の生産能力半減、外部製造委託の活用による設備投資の適正化、不採算製品の販売中止を実行し、2027年度以降、営業利益率5%以上の安定収益を確保する体制を確立します。

ジェネリック原薬の増販と開発推進、新規疼痛治療薬開発のステージアップ

損益、ROIC



*:2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 27

方針・施策

- 既存製品の収益最大化
- 開発後期品・上市後製品への資源集中による早期収益化
- 新規顧客開拓に向けたグローバル営業の強化

新剤・新製品開発

- 高活性原薬およびペプチドの製造技術と開発力を強みに受託・原薬開発を強化
- 新規疼痛治療薬NIP-322の開発マイルストーン達成
- 核酸創薬のステージアップと提携拡大
- 生体物質付着防止材料の安定供給と用途拡大

ヘルスケアセグメントではジェネリック原薬の増販、新規疼痛治療薬の開発マイルストーン獲得により、2027年度の数値目標を売上高 64 億円、営業利益 24 億円としています。

新剤・新製品開発につきましては、高活性原薬およびペプチドの製造技術と開発力を生かし、受託および原薬開発を強化します。また、外部との共同創薬による核酸創薬のステージアップ、生体物質付着防止材料 prevelex の安定供給と用途拡大に取り組みます。

Vista2027 Stage II(2025-27年度) セグメント別損益

(億円)		2024年度 実績	2027年度 中計*1	2027年度 -2024年度	CAGR
		①	②		
化学品	売上高	378	437	+59	5%
	営業利益	2	24	+22	138%
機能性材料	売上高	1,001	1,224	+223	7%
	営業利益	290	342	+52	6%
農業化学品	売上高	862	975	+113	4%
	営業利益	256	259	+3	1%
ヘルスケア	売上高	60	64	+4	2%
	営業利益	19	24	+5	8%
その他*2	売上高	213	230	+17	3%
	営業利益	1	1	0	-
合計	売上高	2,514	2,930	+416	5%
	営業利益	568	650	+82	5%

*1: 2025年度より新方式セグメント別営業利益(p10参照)

*2: 企画本部、卸売、その他、調整額

© 2025 Nissan Chemical Corporation | 28

最後のスライドになります。これはセグメント別の売上高と営業利益を示しています。

2027年度では売上高 2,930 億円のうち、機能性材料と農業化学品の合計が 75%を占めています。また、営業利益 650 億円のうち、機能性材料と農業化学品が占める割合は約 90%となっています。

以上、基本戦略、現有事業の利益拡大のセグメント別の方針と施策について説明させていただきました。

大門：それでは私から 2024 年度通期決算サマリーと 2025 年度業績予想についてご説明いたします。

2024年度通期決算サマリー



下期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は122億円増収(+10%)■ 営業利益は44億円増益(+18%)■ 純利益は40億円増益(+21%)
通期	前年同期比	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は247億円増収(+11%)■ 営業利益は86億円増益(+18%)■ 純利益は50億円増益(+13%)■ 営業利益、経常利益、純利益で過去最高益を更新■ ROEは18.7%(+1.6pt)
通期	業績予想比 <small>(2025年2月発表予想との比較)</small>	<ul style="list-style-type: none">■ 売上高は38億円上ぶれ■ 営業利益は18億円上ぶれ■ 純利益は21億円上ぶれ
株主還元		<ul style="list-style-type: none">■ 通期配当 174円(前年比10円増配)■ 自己株式取得 115億円完了(2.3百万株)■ 配当性向 55.5%(中計目標55%)、総還元性向 82.0%(同75%)

| 4

まず決算説明資料の4ページでございます。

こちらは2024年度通期決算サマリーでして、前半のパートで申し上げたところと一部かぶりますが、2024年度については上から二つ目の箱にございます通期の前年同期比において、青字にございますように、営業利益、経常利益、純利益で過去最高益を更新となりました。

また、株主還元でございますが、一番下の箱にございますように通期の配当は前年比10円増配の174円といたします。自己株式取得につきましては既に115億円分完了してございまして、230万株の取得となっております。この結果、配当性向は55.5%、総還元性向は82.0%でございます。

2024年度通期決算サマリー 前年同期比



(億円)

	2023年度 実績					2024年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	1,057	496	714	1,210	2,267	1,182	566	766	1,332	2,514	+125 (+12%)	+70 (+14%)	+52 (+7%)	+122 (+10%)	+247 (+11%)
営業利益	241	93	148	241	482	283	128	157	285	568	+42 (+18%)	+35 (+36%)	+9 (+7%)	+44 (+18%)	+86 (+18%)
営業外損益	21	-5	18	13	34	-4	26	-10	16	12	-25	+31	-28	+3	-22
為替差損益	19	-8	11	3	22	-8	18	-12	6	-2	-27	+26	-23	+3	-24
経常利益	262	88	166	254	516	279	154	147	301	580	+17 (+7%)	+66 (+74%)	-19 (-11%)	+47 (+18%)	+64 (+12%)
特別損益	6	0	-4	-4	2	8	0	7	7	15	+2	0	+11	+11	+13
純利益 ^{※1}	195	65	120	185	380	205	112	113	225	430	+10 (+5%)	+47 (+73%)	-7 (-6%)	+40 (+21%)	+50 (+13%)
EBITDA ^{※2}	300	129	191	320	620	345	167	200	367	712	+45	+38	+9	+47	+92
EPS(円/株)	139.55	46.47	86.80	133.27	272.82	148.78	81.49	82.99	164.48	313.26	+9.23	+35.02	-3.81	+31.21	+40.44
配当(円/株)	70	-	-	94	164	70	-	-	104	174	0	-	-	+10	+10
配当性向(%)	-	-	-	-	60.1%	-	-	-	-	55.5%	-	-	-	-	-4.6pt
配当総額	98	-	-	130	228	96	-	-	142	238	-2	-	-	+12	+10
売上高営業利益率	22.8%	18.8%	20.7%	19.9%	21.3%	24.0%	22.5%	20.6%	21.4%	22.6%	+1.2pt	+3.7pt	-0.1pt	+1.5pt	+1.3pt
ROE	-	-	-	-	17.1%	-	-	-	-	18.7%	-	-	-	-	+1.6pt
為替レート(円/%)	141	148	149	148	145	153	152	153	152	153	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 5

次の5ページが具体的な数字でございますが、ここでは1点だけ、真ん中あたりに特別損益というのを2024年度実績年間のところで15億円と書いてございます。

この数字は元々業績予想としてお示しした数字とほぼ変わりませんが、中身としましては後ほど少し申し上げますけども、幾つかご説明すべきことがございますので、あらかじめ申し上げます。

2024年度決算通期サマリー 業績予想比

(億円)

	2024年度 予想 (2025年2月発表)			2024年度 実績			業績予想比
	1-3Q	4Q	年間	1-3Q	4Q	年間	4Q・年間
売上高	1,748	728	2,476	1,748	766	2,514	+38
営業利益	411	139	550	411	157	568	+18
営業外損益	22	-13	9	22	-10	12	+3
為替差損益	10	-15	-5	10	-12	-2	+3
経常利益	433	126	559	433	147	580	+21
特別損益	8	6	14	8	7	15	+1
純利益 ^{※1}	317	92	409	317	113	430	+21
EBITDA ^{※2}	512	182	694	512	200	712	+18
EPS(円/株)	230.27	66.98	297.25	230.27	82.99	313.26	+16.01
配当(円/株)	70	-	164	70	-	174	+10
配当性向(%)	-	-	55.2%	-	-	55.5%	+0.3pt
配当総額	96	-	225	96	-	238	+13
売上高営業利益率	23.5%	19.1%	22.2%	23.5%	20.6%	22.6%	-
ROE	-	-	17.7%	-	-	18.7%	+1.0pt
為替レート(円/ドル)	153	150	152	153	153	153	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

それから、6 ページは業績予想比でございます。

営業利益の増減分析

	2024年度 実績	2023年度 実績	前年同期比	業績予想(2025年2月発表)	業績予想比
	285 億円	241 億円	+44 億円(+18%)	267 億円	+18 億円
下期	化学品	前年同期比 +5億円 業績予想比 1億円上ぶれ	環境化学品や尿素・アドブルー®等の増収により増益 売上高下ぶれも、固定費等※1下ぶれ(増益要因)により利益上ぶれ		
	機能性材料	前年同期比 +32億円 業績予想比 7億円上ぶれ	ディスプレイ・半導体・無機増収により増益 固定費等上ぶれ(減益要因)も、ディスプレイ・半導体・無機の売上高上ぶれにより利益上ぶれ		
	農業化学品	前年同期比 -4億円 業績予想比 1億円下ぶれ	パーミット等の売上高増収も、固定費等増加により減益 売上高予想通りも、固定費等上ぶれ(減益要因)により利益下ぶれ		
	ヘルスケア	前年同期比 -4億円 業績予想比 4億円下ぶれ	売上高横ばいも、固定費等増加により減益 ファインテック下ぶれにより利益下ぶれ		
	568 億円	482 億円	+86 億円(+18%)		
通期	化学品	前年同期比 +2億円	環境化学品・高純度硫酸等の増収により増益		
	機能性材料	前年同期比 +65億円	ディスプレイ・半導体・無機増収により増益		
	農業化学品	前年同期比 +22億円	ライメイ・グレーシア・フルララネルの増収により増益		
	ヘルスケア	前年同期比 -9億円	リパロ減収に加え、固定費等増加により減益		

※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 7

7 ページ、これはセグメント別の営業利益の増減分析サマリーでございます。

まず、2024 年度下期につきまして、前年同期比と業績予想比をそれぞれ 4 つのセグメントについて並べてございます。

上から、化学品で言いますと前年同期比で 5 億円の増益でございました。環境化学品や尿素・アドブルー等の増収による増益でございます。業績予想比としましても 1 億円ではございますが、上ぶれました。

機能性材料につきましては、前年同期比で 32 億円の増益でございまして、ディスプレイ・半導体・無機、それぞれ増収によりまして増益となりました。その中でも半導体が一番増益の貢献度としては大きかったということになります。また、業績予想比につきましても 7 億円のうぶれで、固定費等のうぶれはございましたが、ディスプレイ・半導体・無機それぞれ売上高のうぶれによりまして、利益のうぶれとなっております。

続きまして農業化学品でございますが、前年同期比では下期マイナス 4 億円の減益でございます。売上高増収はございましたが、固定費等の増加がございまして、結果的には若干の減益。また業績予想比につきましても固定費等で若干の上ぶれ(減益要因)により 1 億円の下ぶれ。

最後にヘルスケアでございますが、前年同期比では 4 億円の減益、また業績予想比でも 4 億円の下ぶれということで、ここは特に業績予想比で言えばファインテックの下ぶれによる利益の下ぶれとなっております。

一方、通期でございますが、下の箱でございますけども、ここは前年同期比だけを載せておりまして、機能性材料が 65 億円の増益、特に半導体を中心に大きく貢献をいたしました。

また、農業化学品も 22 億円の増益ということでございまして、ライメイ、グレーシア、またフルラネルの増収も貢献をしております。

一方、ヘルスケアにつきましては残念ながら前年同期比で 9 億円の減益ということでございまして、後ほどご説明しますけどもリバロの減収に加えて、固定費等の増加も減益要因でございます。なお固定費等には、在庫変動影響も含んでおります。

2025年度通期業績予想

※米国関税の直接的な影響は限定的、
間接的な影響は合理的算定が困難のため織り込まず

上期	前年同期比
----	-------

- 売上高は37億円増収(+3%)
- 営業利益は横ばい
- 純利益は1億円増益(0%) (為替差損益(営業外損益)6億円減益※1)

通期	前年同期比
----	-------

- 売上高は108億円増収(+4%)
- 営業利益は8億円増益(+1%)
- 純利益は1億円増益(0%) (為替差損益(営業外損益)12億円減益※1)
- ROE予想は18.1%

※1 p12参照

株主還元予想

- 中計目標に基づき、総還元性向目標は75%、配当性向目標は55%
- 自己株式取得は合計105億円を予定
(15億円は25年4月に取得終了、90億円は2025年5月～2026年3月に取得予定)

配当	通期176円 (中間70円、期末106円)、配当性向55.1% ※前年比: 2円増配
自己株式取得	105億円 15億円(2025年3月6日発表分、2025年4月取得終了) 90億円(2025年5月15日発表分、2025年5月～2026年3月取得) ※2024年度実績 115億円、2.3百万株
総還元性向予想	79.1% (配当176円と自己株式取得105億円に基づき計算)

| 9

続きまして9ページ、2025年度通期の業績予想サマリーでございます。冒頭に書いてございますが、米国関税の直接的な影響は当社としては限定的と見ております。一方、間接的な影響につきましては、合理的な算定がなかなか難しいということから織り込んでいないということでございます。

特にこの二つ目の箱、通期の前年同期比を見ていただきますと、売上高としてはプラス4%の108億円増収、営業利益はプラス1%の8億円増益、また純利益は1億円増益ということでございます。ここには右に書いてございますように為替差損益、営業外損益にて、前年同期比で12億円の減益を想定しております。ROEの予想は18.1%でございます。

株主還元でございますが、先ほどご説明しました中計目標に従いまして総還元性向75%、配当性向55%、また自己株式取得につきましては合計105億円の取得を予定いたします。ただし、この4月に既に15億円を取得済みでございますので、残る90億円を今月以降、年度内に取得予定ということで発表させていただきました。

配当につきましては、2円増配の176円ということで今期は進めてまいりたいと思っております。配当性向で55.1%ということになります。

総還元性向予想につきましては、その結果79.1%ということでございます。

2025年度業績予想サマリー 前年同期比



(億円)

	2024年度 実績					2025年度 業績予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	587	595	1,182	1,332	2,514	650	569	1,219	1,403	2,622	+63	-26	+37 (+3%)	+71 (+5%)	+108 (+4%)
営業利益	144	139	283	285	568	171	112	283	293	576	+27	-27	0 (0%)	+8 (+3%)	+8 (+1%)
営業外損益	16	-20	-4	16	12	-6	-6	-12	9	-3	-22	+14	-8	-7	-15
為替差損益	13	-21	-8	6	-2	-14	0	-14	0	-14	-27	+21	-6	-6	-12
経常利益	160	119	279	301	580	165	106	271	302	573	+5	-13	-8 (-3%)	+1 (+0%)	-7 (-1%)
特別損益	0	8	8	7	15	0	0	0	0	0	0	-8	-8	-7	-15
純利益 ^{※1}	116	89	205	225	430	122	84	206	225	431	+6	-5	+1 (0%)	0 (0%)	+1 (+0%)
EBITDA ^{※2}	180	165	345	367	712	-	-	353	380	733	-	-	+8	+13	+21
EPS(円/株)	83.78	65.00	148.78	164.48	313.26	-	-	152.52	166.91	319.43	-	-	+3.74	+2.43	+6.17
配当(円/株)	-	-	70	104	174	-	-	70	106	176	-	-	0	+2	+2
配当性向(%)	-	-	-	-	55.5%	-	-	-	-	55.1%	-	-	-	-	-0.4pt
配当総額	-	-	96	142	238	-	-	95	142	237	-	-	-1	0	-1
売上高営業利益率	24.6%	23.4%	24.0%	21.4%	22.6%	26.3%	19.7%	23.2%	20.9%	22.0%	+1.7pt	-3.7pt	-0.8pt	-0.5pt	-0.6pt
ROE	-	-	-	-	18.7%	-	-	-	-	18.1%	-	-	-	-	-0.6pt
為替レート(円/ドル)	156	150	153	152	153	145	145	145	145	145	-	-	-	-	-

※1 純利益は、親会社株主に帰属する純利益を指す ※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

| 10

具体的な数字は10ページでございます。2025年度業績予想は売上高2,622億円、営業利益576億円、為替差損益は先ほど申し上げましたようにマイナス14億円ということで、経常利益573億円、純利益431億円、売上高営業利益率22.0%、ROE18.1%、為替レートは最終行にございますように今期はドル円で145円を想定しております。

	2025年度 予想	2024年度 実績	前年同期比
上期	283 億円	283 億円	0 億円(0%)
化学品	前年同期比 +6億円	尿素・アドブルー®や高純度硫酸の増収により増益	
機能性材料	前年同期比 +19億円	ディスプレイ・半導体・無機増収により増益	
農業化学品	前年同期比 -25億円	固定費等増加(昨年度の一過性要因による償却費減少11億円の反動と在庫変動影響)により減益	
ヘルスケア	前年同期比 -8億円	ファインテック減収により減益	
通期	576 億円	568 億円	+8 億円(+1%)
化学品	前年同期比 +10億円	高純度硫酸や尿素・アドブルー®の増収により増益	
機能性材料	前年同期比 +19億円	ディスプレイ・半導体・無機増収により増益	
農業化学品	前年同期比 -3億円	フルララネル・グレースシア・ラウンドアップ増収も、固定費等増加(昨年度の一過性要因による償却費減少11億円の反動と在庫変動影響)により減益	
ヘルスケア	前年同期比 -5億円	ファインテック減収により減益	

続きまして 11 ページでございます。セグメント別の営業利益の増減分析でございます。

ここでは上期は割愛いたしまして通期を申し上げますと、全体としては 8 億円の増益でございます。まず化学品は前年同期比では 10 億円の増益でして、高純度硫酸や尿酸・アドブルーの増収により増益でございます。

また機能性材料は 19 億円の増益、ディスプレイ・半導体・無機増収による増益ということですが、特に引き続き半導体の増益の貢献度が高いということになります。

農業化学品は一方、マイナス 3 億円でございます。売上高は増収ですが固定費等の増加、とりわけ 2024 年度は一過性要因による償却費減少 11 億円がございましたので、2025 年度では逆に固定費としては増加します。また在庫変動影響も一定部分ございまして、減益となります。

最後にヘルスケアですが、ここは前年同期比でマイナス 5 億円ということで、ファインテックの減収による減益ということでございます。

営業外損益・特別損益の内訳

(億円)

	2023年度 実績			2024年度 実績			前年同期比			2024年度 予想 ^{※3}	2025年度 予想		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間		年間	上期	下期
受取利息・配当金	4.4	12.8	17.2	5.9	13.5	19.4	+1.5	+0.7	+2.2	-	7.5	11.6	19.1
持分法投資損益	4.0	1.4	5.4	1.4	9.2	10.6	-2.6	+7.8	+5.2	-	3.7	7.3	11.0
為替差損益 ^{※1}	18.8	3.3	22.1	-8.3	6.8	-1.5	-27.1	+3.5	-23.6	-5.0	-14.0	0.0	-14.0
支払利息	-2.6	-2.7	-5.3	-3.5	-3.0	-6.5	-0.9	-0.3	-1.2	-	-3.2	-2.9	-6.1
固定資産処分損他	-3.6	-1.5	-5.1	0.5	-10.6	-10.1	+4.1	-9.1	-5.0	-	-5.7	-7.6	-13.3
営業外損益	21.0	13.3	34.3	-4.0	15.9	11.9	-25.0	+2.6	-22.4	9.0	-11.7	+8.4	-3.3
特別利益	6.0	7.3	13.3	8.2	45.1	53.3	+2.2	+37.8	+40.0	-	0.0	0.0	0.0
特別損失	0.0	-11.8	-11.8	0.0	-38.8	-38.8	0.0	-27.0	-27.0	-	0.0	0.0	0.0
特別損益^{※2・4}	6.0	-4.5	1.5	8.2	6.3	14.5	+2.2	+10.8	+13.0	14.0	0.0	0.0	0.0

※1 為替レート(円/ドル): 23/3末 133.54、23/9末 149.58、24/3末 151.40、24/9末 142.82、25/3末 149.53

※2 2023年度年間実績:

特別利益+13.3億円(有価証券売却益13.3億円)

特別損失 -11.8億円(減損損失8.2億円、出資先(非上場会社)にかかる保有株式減損3.5億円)

※3 2024年度予想: 2025年2月発表

※4 2024年度年間実績:

特別利益+53.3億円(信託受益権受贈益32.6億円、有価証券売却益12.5億円、条件付対価受入益8.2億円)

特別損失 -38.8億円(減損損失38.8億円)

| 12

続きまして 12 ページでございます。

上段が営業外損益でございます、これは一番右に今期の年間予想、上から3行目ですけども、為替差損益にてマイナス14億円を想定しています。

また、先ほど少し触れました特別損益ですが、2024年度実績を見ていただきますと、ネットでは特別損益として最終行の通り14.5億円ではほぼ業績予想通りではありましたが、中身としましてはまず特別利益に53.3億円の計上がございました。一方、特別損失としては38.8億円という数字を上げております。

具体的な中身につきましては、一番下の※4に細かく記載しております。この特別利益53億円のうち、33億円は信託受益権受贈益ですが、中身は守秘義務等の関係もございまして詳細は申し上げられません。

また、特別損失は先ほど松岡からもコメントがございましたように、化学品事業部におきまして38.8億円のうちの28億円、これをファインケミカルにて減損計上しております。

キャッシュ・フロー

2024年度のフリー・キャッシュ・フローは416億円となり、前年同期比266億円の増加

(億円)

	2023年度 実績	2024年度 実績	前年同期比	2024年度 予想 (2024年11月発表)	2025年度 予想
営業活動によるキャッシュ・フロー	337	592	255	535	552
税金等調整前純利益	518	595	77	546	573
特別損益(マイナスは益)	-2	-15	-13	-14	0
減価償却費※1	138	144	6	144	157
法人税等の支払	-159	-126	33	-120	-167
運転資金増減他	-158	-6	152	-21	-11
投資活動によるキャッシュ・フロー	-187	-176	11	-190	-213
設備投資※2	-202	-176	26	-191	-215
投資有価証券購入・売却	16	-2	-18	10	-2
その他	-1	2	3	-9	4
フリー・キャッシュ・フロー	150	416	266	345	339
財務活動によるキャッシュ・フロー	-221	-357	-136	-327	-317
株主還元(配当)	-230	-227	3	-227	-341
株主還元(自己株式取得)	-100	-115	-15	-100	
有利子負債増減	109	-15	-124	0	24
その他	0	0	0	0	0
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	-11	-13	0	0
現金及び現金同等物の増減額	-69	48	117	18	22
現金及び現金同等物の残高	227	275	48	245	297

※1 のれん償却費を含む ※2 無形資産を含む

| 13

13 ページ、キャッシュ・フローでございます。

この表の左から二つ目の列が2024年度実績でございまして、フリー・キャッシュ・フローは中段にございますように416億円できて、前年同期比では266億円の増加となり大きく改善しました。一方、一番右の列が2025年度予想でございまして、フリー・キャッシュ・フロー339億円できて、前年比では若干減少しておりますが引き続き高い水準を保っていると思っております。

現預金の残高につきましては最終行にございまして、300億円弱の現預金を保持する計画でございます。

貸借対照表

(億円)

	2024年3月末	2025年3月末	前期末比
流動資産	2,020	2,104	+84
現預金	227	275	+48
売上債権	888	891	+3
たな卸資産	782	801	+19
その他	123	137	+14
固定資産	1,215	1,204	-11
有形固定資産	774	724	-50
無形固定資産	107	135	+28
投資有価証券	261	244	-17
その他	73	101	+28
資産合計	3,235	3,308	+73

	2024年3月末	2025年3月末	前期末比
負債	926	946	+20
買入債務	204	199	-5
借入金、社債、CP	410	405	-5
その他	312	342	+30
純資産	2,309	2,362	+53
株主資本 ^{※1}	2,139	2,229	+90
その他有価証券評価差額金	83	70	-13
為替換算調整勘定	42	18	-24
非支配株主持分	34	29	-5
退職給付に係る調整累計額	11	16	+5
負債純資産合計	3,235	3,308	+73

自己資本比率	70.3%	70.5%
ネットD/Eレシオ ^{※2}	0.09倍	0.06倍

投資有価証券(固定資産)の内訳

	2024年3月末	2025年3月末	前期末比	参考 2018年3月末
上場株式 ^{※3}	171	156	-15	300
(単体ベース保有銘柄数)	(24)	(24)	(0)	(55)
非上場株式	23	22	-1	17
関係会社株式	67	65	-2	68
合計	261	243	-18	385
純資産に占める 政策保有株式の割合 ^{※4}	7.7%	6.9%		17.0%

※1 株主資本増減+90 = 純利益430 - 配当その他340 ※2 ネットD/Eレシオ = (借入金、社債、CP - 現金預金) / 株主資本
 ※3 24/3末 171 + 取得0 + 評価差額-15 = 25/3末 156 ※4 政策保有株式割合 = 政策保有株式(単体ベース、上場株+非上場株) / 純資産(連結ベース)

| 14

14 ページ、バランスシートになります。

左上は資産でございます、合計としましては2024年3月末対比で2025年3月末は約70億円強の資産増となっておりますが、うち現預金で50億円弱ということがございます。

上から3行目のたな卸資産でございますが、今回もプラス19億円ということで若干の増加ではございますが、保有日数ベースで見ますと今回減少に転じております。特に一般農薬につきましては、たな卸資産は2024年3月末から若干ではございますが減少に転じており、これにつきましてはコントロールを少しずつ強化した結果と思っております。

右の負債サイド、有利子負債等はそれほど大きく変更はございません。自己資本比率は70.5%でございます。なお、左下に投資有価証券の内訳がございますが、最終行の純資産に占める政策保有株式の割合は、この3月末では7%を切る6.9%という数字となっております。

セグメント別 設備投資・減価償却費・研究開発費

設備投資および減価償却費は、コア成長事業における製造能力増強(主に海外)により近年増加
研究開発費は、半導体を中心とした機能性材料と農業化学品にて増加基調

(億円)

	設備投資※1					減価償却費※2					研究開発費※7				
	2021	2022	2023	2024	2025 予想	2021	2022	2023	2024	2025 予想	2021	2022	2023	2024	2025 予想
化学品※3	43	28	46	54	55	25	25	27	29	31	3	3	3	3	3
機能性材料※4	54	90	91	46	88	39	46	60	66	66	70	76	82	83	101
(うち、NCK)※4	13	50	57	5	4	5	7	23	31	19	5	5	8	7	6
農業化学品※5	17	59	51	41	24	27	28	34	29	39	42	43	43	45	50
ヘルスケア※6	7	5	5	5	7	4	4	4	4	5	6	4	4	6	7
卸売	0	1	0	3	4	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0
その他※6・7	3	11	9	27	37	6	7	12	15	20	39	42	41	39	63
合計※7	124	194	202	176	215	102	110	138	144	162	160	168	173	176	224

※1 設備投資額: キャッシュ・フローベース

※2 減価償却法

国内 ディスプレイ材料・半導体材料: 4年定率(初年度50%を償却)、その他: 8年定率(初年度25%を償却)

海外 NCK: 6年定率(初年度33%を償却)、NBR: 10年定額

※3 設備投資 2024年 富山工場 製造設備(10億円)、2025年 富山工場 製造設備(9億円)を含む

※4 設備投資 2022年 NCK半導体新工場(46億円)、2023年 NCK半導体新工場(47億円)、2025年予想 半導体研究設備・機器(32億円)を含む

※5 設備投資 2020年 ダイセン買収(54億円)、2022年 NBR 第1期工事(43億円)、2023年 小野田工場 製造設備(26億円)、2024年 小野田工場 製造設備(18億円)を含む

減価償却費 2024年 一過性要因の11億円減少を含む

※6 設備投資 2022年4月に組織改定を実施。2021年は旧医薬品セグメント、それ以降はその他を含む

※7 研究開発費 集計方法の変更により2025年から企画本部(その他)の一部経費を研究開発費に含む

| 15

続きまして 15 ページ、セグメント別に設備投資、減価償却費、研究開発費の過去 4 年分と今期の予想値をお示ししております。

それぞれ※印に注記を付けておりまして、細かくて恐縮でございますけれども、例えば半導体で言えば機能性材料の 3 行目、NCK にて 2024 年度をピークに 2025 年度では減価償却が進んでおり、19 億円の計上となっております。

この結果、機能性材料につきましてはほぼ横ばいの 66 億円でございます、半導体としてもほぼ横ばいとなっております。

それから研究開発費につきましては、一番右の列の合計を見ていただきますと、224 億円です、2024 年度から大きく増加しております。

このうち一部集計方法の変更がございまして、※7 の注記に書いてありますが、2025 年度から企画本部の一部経費を研究開発費に含める形に変更しております。その影響が 16 億円強、この 224 億円の中に入っております。

セグメント別 2024年度通期決算 前年同期比



(億円)

		2023年度 実績					2024年度 実績					前年同期比				
		上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
化学品	売上高	179	96	81	177	356	179	102	97	199	378	0	+6	+16	+22	+22 (+6%)
	営業利益	-1	4	-3	1	0	-4	5	1	6	2	-3	+1	+4	+5	+2 (+270%)
機能性材料	売上高	405	214	227	441	846	486	256	259	515	1,001	+81	+42	+32	+74	+155 (+18%)
	営業利益	111	63	51	114	225	144	79	67	146	290	+33	+16	+16	+32	+65 (+29%)
農業化学品	売上高	353	132	336	468	821	392	146	324	470	862	+39	+14	-12	+2	+41 (+5%)
	営業利益	116	29	89	118	234	142	37	77	114	256	+26	+8	-12	-4	+22 (+9%)
ヘルスケア	売上高	35	13	15	28	63	33	11	16	27	60	-2	-2	+1	-1	-3 (-5%)
	営業利益	18	5	5	10	28	13	3	3	6	19	-5	-2	-2	-4	-9 (-33%)
卸売・その他・調整額	売上高	85	41	55	96	181	92	51	70	121	213	+7	+10	+15	+25	+32
	営業利益	-3	-8	6	-2	-5	-12	4	9	13	1	-9	+12	+3	+15	+6
合計	売上高	1,057	496	714	1,210	2,267	1,182	566	766	1,332	2,514	+125	+70	+52	+122	+247 (+11%)
	営業利益	241	93	148	241	482	283	128	157	285	568	+42	+35	+9	+44	+86 (+18%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、NC東京ベイ、NCアグロ函館・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)、日本肥糧、調整額：企画本部ほか(内訳はp63、p64参照)

| 17

続きまして具体的な数字として、セグメント別では17ページに2024年度の前年同期比。

セグメント別 2024年度通期決算 業績予想比



(億円)

		2024年度 予想 (2025年2月発表)					2024年度 実績					業績予想比
		上期 実績	3Q 実績	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	
化学品	売上高	179	102	104	206	385	179	102	97	199	378	-7
	営業利益	-4	5	0	5	1	-4	5	1	6	2	+1
機能性材料	売上高	486	256	232	488	974	486	256	259	515	1,001	+27
	営業利益	144	79	60	139	283	144	79	67	146	290	+7
農業化学品	売上高	392	146	325	471	863	392	146	324	470	862	-1
	営業利益	142	37	78	115	257	142	37	77	114	256	-1
ヘルスケア	売上高	33	11	18	29	62	33	11	16	27	60	-2
	営業利益	13	3	7	10	23	13	3	3	6	19	-4
卸売・その他・ 調整額	売上高	92	51	49	100	192	92	51	70	121	213	+21
	営業利益	-12	4	-6	-2	-14	-12	4	9	13	1	+15
合計	売上高	1,182	566	728	1,294	2,476	1,182	566	766	1,332	2,514	+38
	営業利益	283	128	139	267	550	283	128	157	285	568	+18

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、NC東京ベイ、NCアグロ函館・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)、日本肥糧、調整額：企画本部ほか(内訳はp63,p64参照)

| 18

それから 18 ページに、2024 年度実績の業績予想比、2 月発表に対しての比較となります。

セグメント別 2025年度通期業績予想 前年同期比



(億円)

		2024年度 実績					2025年度 予想					前年同期比				
		1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
化学品	売上高	89	90	179	199	378	94	97	191	210	401	+5	+7	+12	+11	+23 (+6%)
	営業利益	7	-11	-4	6	2	8	-6	2	10	12	+1	+5	+6	+4	+10 (+567%)
機能性材料	売上高	235	251	486	515	1,001	257	263	520	540	1,060	+22	+12	+34	+25	+59 (+6%)
	営業利益	70	74	144	146	290	83	80	163	146	309	+13	+6	+19	0	+19 (+7%)
農業化学品	売上高	204	188	392	470	862	232	155	387	533	920	+28	-33	-5	+63	+58 (+7%)
	営業利益	69	73	142	114	256	76	41	117	136	253	+7	-32	-25	+22	-3 (-1%)
ヘルスケア	売上高	15	18	33	27	60	15	11	26	26	52	0	-7	-7	-1	-8 (-13%)
	営業利益	6	7	13	6	19	4	1	5	9	14	-2	-6	-8	+3	-5 (-26%)
卸売・その他・調整額	売上高	44	48	92	121	213	52	43	95	94	189	+8	-5	+3	-26	-24
	営業利益	-8	-4	-12	13	1	0	-4	-4	-8	-12	+8	0	+8	-21	-13
合計	売上高	587	595	1,182	1,332	2,514	650	569	1,219	1,403	2,622	+63	-26	+37	+71	+108 (+4%)
	営業利益	144	139	283	285	568	171	112	283	293	576	+27	-27	0	+8	+8 (+1%)

※ セグメント間の内部売上高又は振替高を含む

※ 卸売：日産産業、その他：日産物流、日産緑化、日産エンジニアリング、NC東京ベイ、NCアグロ函館・日本ポリテック(2024年度より連結子会社化)、日本肥糧、調整額：企画本部ほか(内訳はp63,p64参照)

※ 企画本部の2024年度実績、2025年度予想の売上高・営業利益はp45参照

| 19

それから最後 19 ページでございますけども、これが 2025 年度の前年同期比のセグメント別予想でございます。

2025年度セグメント別業績予想※1



機能性材料セグメント業績推※1・2



※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益(p62参照) ※2 2022年4月に組織改定を実施。2016～2020年度実績は旧セグメント区分

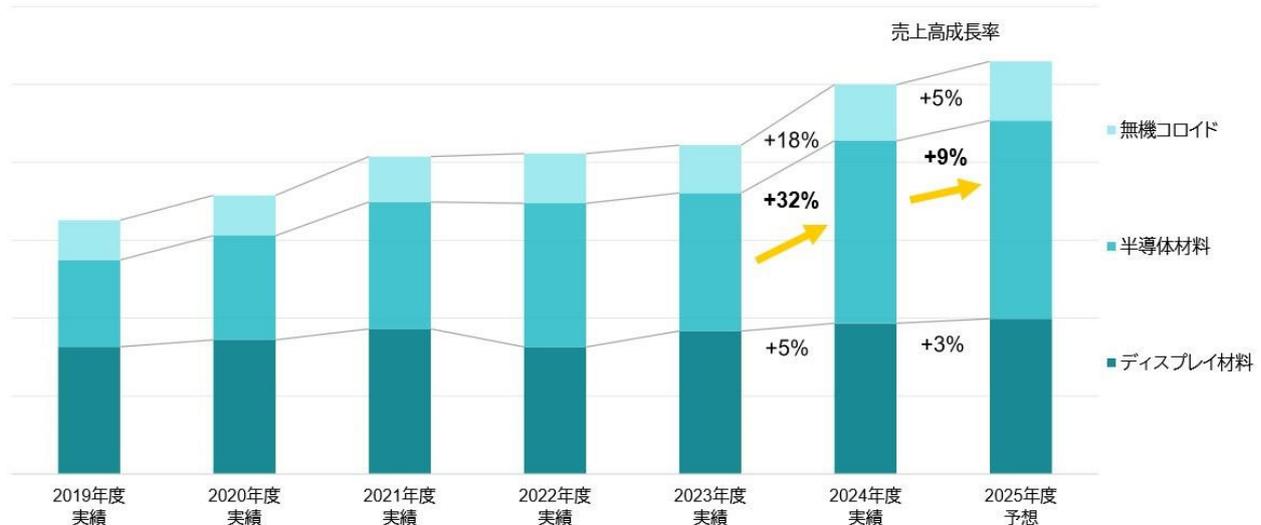
参考 機能性材料R&D説明会 (2022年6月21日発表)

それではセグメント別に簡単に触れさせていただきます。20 ページでございます。

機能性材料セグメントにつきましては、2024 年度売上高がついに 1,000 億円の大台に乗りまして、2025 年度につきましても引き続き高い営業利益率を維持する計画でございます。

- ディ스플레이材料は、2022年度を底として回復。キャッシュカウとして安定的な売上高を維持
- 半導体材料は、2023年度は一時的な調整局面にあったが、市場の回復に伴い、2024年度は高い成長率を実現
EUV材料は顧客生産増により伸長し、中長期での成長トレンドは不変
- サブセグメント売上高構成では、成長ドライバーである半導体材料が、ディスプレイ材料を上回る
- 2025年度は、半導体材料を中心に全てのサブセグメントにて、前年比増収を見込む

機能性材料サブセグメント売上高推移



| 21

具体的には、まず売上高ということで21ページございます。サブセグメント別のイメージを載せております。

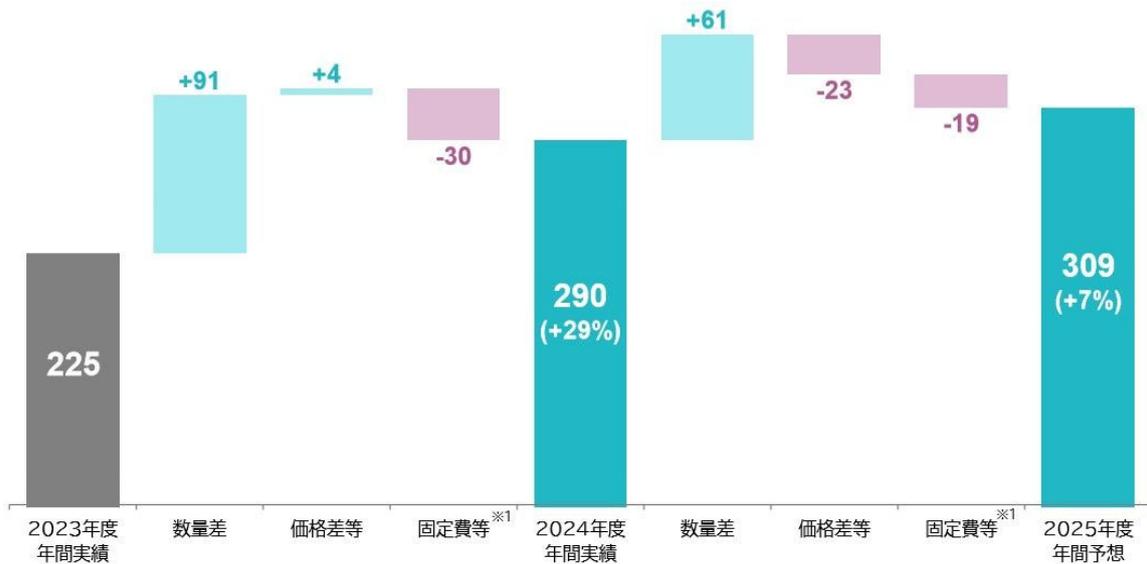
右から二つ目が2024年度実績、それから一番右が2025年度予想ということでございますが、まずディスプレイにつきましては2022年度を底として回復しておるということで、引き続きキャッシュカウとして安定的な売上高を維持ということでございます。

半導体につきましては2023年度に一時的な調整局面にございましたが、市場の回復に伴いまして2024年度はYoYで+32%という高い成長率を実現しました。EUV材料は、顧客生産増により伸長し、中長期での成長トレンドは不変と考えております。

この成長ドライバーである半導体材料が、ディスプレイ材料を売上高として上回った格好になってございます。2025年度につきましては、半導体中心ではありますが、全てのサブセグメントにて前年比増収を見込んでおります。

- 2024年度は半導体の成長投資に伴う固定費増加も、半導体を中心に全てのサブセグメントでの数量増加が寄与し、大幅増収増益
- 2025年度は半導体とディスプレイの数量増加により、価格差や固定費等の減益要因が加わるも、増収増益

■ 営業利益増減分析 (億円)



※1 固定費等には在庫変動影響を含む

| 22

次に 22 ページは、機能性材料セグメントの営業利益増減分析を 2023 年度実績、2024 年度実績、それから 2025 年度予想ということで 3 期にわたって解析をしております。

2024 年度につきましては半導体の成長投資に伴う固定費増がありました。半導体を中心に全てのサブセグメントで数量増が大きく寄与しまして大幅な増収増益ということになりました。2025 年度につきましては半導体とディスプレイの数量増加によりまして、価格差や固定費等の減益要因がありますけれども、増収増益を計画しております。

- ディ스플레이材料は、2024年度年間で5%増収、2025年度年間で3%増収予想
- 半導体材料は、2024年度年間で32%増収、2025年度年間で9%増収予想
- 無機コロイドは、2024年度年間で18%増収、2025年度年間で5%増収予想

主要製品	2024年度 実績					2025年度 予想				
	前年同期比					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
ディスプレイ材料合計	+1%	+9%	+10%	+9%	+5%	+10%	+1%	+6%	+1%	+3%
ARC®	+32%	+15%	+16%	+15%	+22%	+3%	0%	+2%	+3%	+2%
多層材料	+68%	+96%	+15%	+45%	+54%	+14%	+15%	+14%	+12%	+13%
EUV材料※1	+44%	+21%	+31%	+26%	+34%	+17%	+3%	+10%	+11%	+10%
半導体材料合計	+42%	+34%	+17%	+24%	+32%	+10%	+7%	+9%	+9%	+9%
無機コロイド合計	+19%	+11%	+21%	+16%	+18%	+7%	+6%	+7%	+3%	+5%
機能性材料セグメント合計	+20%	+19%	+14%	+17%	+18%	+9%	+5%	+7%	+5%	+6%

※1 EUV材料：EUV向け下層膜とSi-HMの合計

続きまして 23 ページ、主要製品の売上高成長率でございます。

左側が 2024 年度実績でして、年間のところを見ていただきますとディスプレイはプラス 5%、それから半導体につきましてはプラス 32%、特に上から 3 行目の多層材料はプラス 54%となり非常に強い数字となりました。

また、無機コロイドも大変好調でございましてプラス 18%の増収、結果としてセグメント全体で 18%の増収になりました。

2025 年度予想でございますが、一番右の列にございますようにディスプレイでプラス 3%、半導体はプラス 9%、無機はプラス 5%となり、セグメント全体ではプラス 6%の増収を想定いたします。

(億円)

	2023年度 実績					2024年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	405	214	227	441	846	486	256	259	515	1,001	+81	+42	+32	+74	+155
営業利益	111	63	51	114	225	144	79	67	146	290	+33	+16	+16	+32	+65

固定費等【下期】増加9億円【年間】増加30億円

ディスプレイ	【下期】増収・増益 【年間】増収・増益	
	光IPS	非スマホ向け全般で増収 【下期】増収(大型モニター、車載向け増収) 【年間】増収(大型モニター、ノートPC向け増収)
	ラビングIPS	【下期】増収 【年間】減収
	VA	【下期】【年間】増収(TV生産回復)

半導体	【下期】増収・増益 【年間】増収・増益	
	ARC®	先端世代を中心に市場回復、顧客稼働増 一部顧客にて在庫積み増しあり 【下期】【年間】増収
	多層材料	【下期】【年間】増収
	EUV材料	【下期】【年間】増収

固定費等【下期】増加11億円【年間】増加30億円

無機 コロイド	【下期】増収・増益 【年間】増収・増益	
		【下期】【年間】スノーテックス(特に研磨剤)、 オルガノ・モノマーゾル増収

| 24

続きまして24ページ、ここは2024年度実績の前年同期比でございまして、サブセグメントごとにコメントを付しておりますので後ほどご確認ください。全てのサブセグメントで増収増益となりましたのは、先ほど申し上げたとおりです。

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	235	251	486	515	1,001	257	263	520	540	1,060	+22	+12	+34	+25	+59
営業利益	70	74	144	146	290	83	80	163	146	309	+13	+6	+19	0	+19

固定費等【年間】増加19億円

ディスプレイ	【年間】増収・増益	
	光IPS	非スマホ向けで増収 【年間】増収(大型モニター、車載向け増収)
	ラビングIPS	【年間】減収
	VA	【年間】増収(一部シェア拡大)
固定費等【年間】増加4億円		

半導体	【年間】増収・増益	
	先端世代を中心に増収、顧客稼働増	
	ARC®	【年間】増収
	多層材料	【年間】増収
	EUV材料	【年間】増収
	三次元実装材料	【年間】増収
固定費等【年間】増加9億円		
無機 コロイド	【年間】増収・減益	
	【年間】オイル&ガス材料、スノーテックス(研磨剤) 増収	
固定費等【年間】増加5億円		

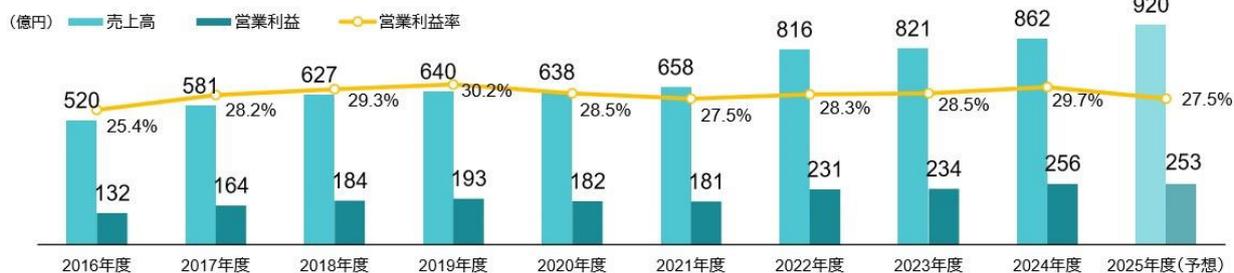
| 25

続きまして 25 ページ、これは 2025 年度予想の前年同期比でございまして、ディスプレイ、半導体は増収増益でございしますが、無機は増収でありますけれども若干の減益でございします。固定費等の増加につきましては、全体として 19 億円でございます。

2025年度セグメント別業績予想※1



農業化学品セグメント業績推移※1・2



※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益(p62参照) ※2 2022年4月に組織改定を実施。2016～2020年度実績は旧セグメント区分

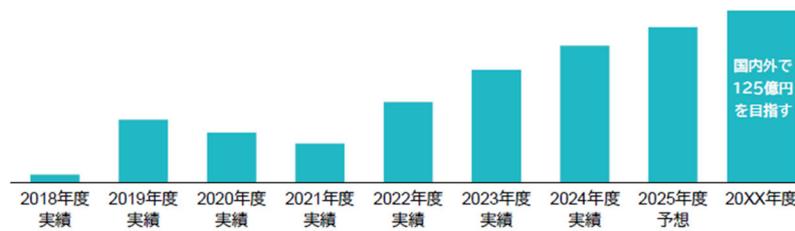
26 ページで農業化学品セグメントでございます。

■ 2024年度年間で5%増収、2025年度年間で7%増収予想

主要製品名 (農業:2024年度売上高順)	種類	2024年度 実績					2025年度 予想					
		前年同期比					前年同期比					
		上期	3Q	4Q	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	
農薬	ラウンドアップ ^{※1}	除草剤	-2%	+2%	-8%	-7%	-5%	+5%	+11%	+8%	+9%	+8%
	アルテア	除草剤	+20%	-11%	-3%	-4%	0%	+19%	-20%	+15%	+2%	+5%
	グレーシア	殺虫剤	+42%	+12%	-5%	+2%	+21%	-20%	-33%	-27%	+68%	+14%
	ライメイ	殺菌剤	+125%	+149%	-3%	+13%	+45%	+43%	-42%	0%	-5%	-3%
	タルガ	除草剤	-47%	-5%	-15%	-12%	-29%	+3%	+30%	+15%	-13%	-3%
	パーミット	除草剤	-46%	+332%	+59%	+138%	+22%	+1%	+4%	+2%	-8%	-5%
	ダイセン	殺菌剤	-24%	-30%	+11%	-1%	-9%	+35%	-3%	+15%	+3%	+6%
	ベルダー	除草剤	-	-	-	-	-	-	-	-	+178%	+201%
動物薬	フルラナレル	動物薬	+20%	-3%	-21%	-12%	+6%	+31%	-17%	+5%	+25%	+12%
セグメント合計 ^{※2}		-	+11%	+11%	-4%	0%	+5%	+14%	-18%	-1%	+13%	+7%

■ グレーシア売上高

- 当初の売上目標100億円を2024年度に達成
- 今回ピーク時売上目標を125億円へ上方修正



参考

- ラウンドアップの現状説明会資料
(2020年1月22日発表)
- 農業化学品事業説明会資料
(2022年9月28日発表)

※1 ラウンドアップALは、2024年度年間実績のラウンドアップ売上高全体の22%を占める
 ※2 セグメント合計の前年同期比は値引きを含む

27 ページは、2024 年度と 2025 年度の主要製品の売上高成長率でございます。

2024 年度は最終行にございますように、セグメント合計としてはプラス 5%の増収でございました。それに対しまして 2025 年度はプラス 7%という数字を想定いたします。

動物薬につきましては記載のとおり、2024 年度はプラス 6%、2025 年度はプラス 12%という想定になります。

また、下にグラフがございましたグレーシアの売上高につきましては、この 2024 年度実績を持ちまして当初の計画目標である 100 億円を達成いたしました。今回、ピーク時売上目標を 125 億円へ上方修正しております。

(億円)

	2023年度 実績					2024年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	353	132	336	468	821	392	146	324	470	862	+39	+14	-12	+2	+41
営業利益	116	29	89	118	234	142	37	77	114	256	+26	+8	-12	-4	+22

固定費等【下期】増加18億円【年間】増加16億円(一過性要因(償却費減少11億円)を含む)

【下期】増収・減益

ラウンドアップ	減収(ML:流通在庫影響により数量減)	パーミット	増収(輸出:24年度は下期に販売が偏重)
アルテア	減収(輸出:アジアでの流通在庫影響)	ベルダー	増収(国内:24年度4Qに上市)
ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増、25年度からの一部出荷前倒し)	フルララネル	減収(原薬:25年度へ一部出荷後ろ倒しにより減収、ロイヤリティ:増収)

【年間】増収・増益

ラウンドアップ	減収(ML:流通在庫影響により数量減)	パーミット	増収(輸出:欧州での需要増、25年度から一部出荷前倒し)
グレーシア	増収(国内:拡販、輸出:アジア等での拡販)	ダイセン	減収(国内:25年度へ一部出荷後ろ倒し、輸出:減収)
タルガ	減収(輸出:欧州での流通在庫影響、23年度へ出荷前倒し)	ベルダー	増収(国内:24年度4Qに上市)
ライメイ	増収(輸出:欧州での需要増)	フルララネル	増収(原薬:25年度へ一部出荷後ろ倒しにより減収、ロイヤリティ:増収、一部円安影響あり)

| 28

28 ページは 2024 年度実績の前年同期比でございまして、年間で増収増益でございます。

それぞれ多少強弱ございますがグレーシア、ライメイ、パーミットが非常に好調であったことに加えまして、フルララネル、ここは以前申し上げましたが、一部原薬の出荷については 25 年度への後ろ倒しがございました。そのため原薬出荷については減収となっておりますが全体としては増収、プラス 6%という結果でございました。

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	204	188	392	470	862	232	155	387	533	920	+28	-33	-5	+63	+58
営業利益	69	73	142	114	256	76	41	117	136	253	+7	-32	-25	+22	-3

固定費等【年間】増加35億円(2024年度は償却費減少11億円の一過性要因あり)

【年間】増収・減益

ラウンドアップ	増収(ML:流通在庫調整の終了により数量増、AL:数量増)
アルテア	増収(輸出:新規国登録での拡販、既存販売国でも数量増)
グレーシア	増収(国内:拡販、輸出:販売地域の拡大)
ダイセン	増収(国内:24年度から一部出荷後ろ倒し)
バルダー	増収(国内:24年度4Qから上市、25年度拡販)
フルララネル	増収(原薬:24年度から一部出荷後ろ倒しにより増収、ロイヤリティ:減収、一部円高影響あり)

| 29

続きまして 29 ページでございますが、2025 年度予想の前年同期比でして、若干の減益になりますけれども、中身としましては下にコメントが書いてあるとおりでございます。

フルララネルは最終行にございますように、2024 年度から一部原薬の出荷後ろ倒しがございました関係もありまして増収でございます。

上市年度	製品名	分類	開発経緯	備考	
既存製品	2002	ラウンドアップ	除草剤	買収	米国モンサント社より国内事業を買収、継続成長中
	2008	ライメイ	殺菌剤	自社開発	
	2008	スターマイト	殺虫剤	自社開発	
	2009	バルサー(チフルザミド)	殺菌剤	買収	米国ダウ社より世界事業を買収
	2010	ラウンドアップマックスロードAL	除草剤	自社開発	一般家庭向け希釈済みシャワータイプ除草剤。2016年AIⅡ、2017年AIⅢ上市
	2011	アルテア	除草剤	自社開発	2011年韓国で上市、2012年日本で上市
	2013	フルララネル	動物用医薬品原薬	自社開発	米国MAH社※1向けにブラバクト®原薬として出荷開始
	2014	ブラバクト®※2	ペット動物用医薬品	-	2014年4月欧州、6月米国、15年7月日本で上市
2017	トランスフォーム™/エクシード™/ピレスコ™	殺虫剤	導入	米国ダウ社より導入	
新製品・パイプライン	2018	グレーシア	殺虫剤	自社開発	広範囲の重要害虫に有効、ミツバチへの影響が少ない。2018年韓国、2019年日本、2021年インド・インドネシアで上市以降、順次販売国拡大中(ピーク時売上高目標125億円)
	2019	クインテック(キノキシフェン)	殺菌剤	買収	2019年11月米国コルテバ社より世界事業を買収。果樹野菜のうどんこ病(カビの1種)の発病予防に非常に効果的
	2020	ダイセン(マンゼブ)	殺菌剤	買収	2020年12月米国コルテバ社より日本・韓国事業を買収。果樹野菜用の保護除菌剤、耐雨性に優れる
	2024	ベルダー(ジメスルファゼット)(NC-653)	除草剤	自社開発	イネへの優れた安全性があり、抵抗性ホタルイや難防除雑草クログワイに高い効果を持つ(ピーク時売上目標60億円)
	2027	未定(NC-520)	殺虫剤	共同開発	他社との共同開発の新規水稲用殺虫剤。ウンカ類への効果が高い(混合剤も含めピーク時売上目標25億円)
2027	未定(イブトリアソピリド)(NC-656)	除草剤	自社開発	抵抗性イネ科雑草(ヒエ・アゼガヤ)に優れた効果を持つ。当社初の水稲用茎葉除草剤(ピーク時売上高目標100億円)	

新製品群の
ピーク時売上高
目標合計
360億円

※1 MAH社米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称 ※2 ブラバクト®:MAH社の販売製品名

30 ページ、ここは主要製品一覧でございます。

右の黄色い枠内でございますように新製品群、これはグレーシアから 2027 年度上市予定の NC-656 までの 6 剤ということですが、ピーク時売上高目標としましては少し上方修正をしております。特に 2024 年度に上市しました NC-653 につきましては幾つか今の見立てとして検討材料を勘案しまして、売上目標についてはピーク時 60 億円ということでアップデートをしております。

- 当社が発明した化合物「フルララネル」を有効成分とするブラベクト®シリーズ・エグゾルト®は現在100か国以上で販売中
- ブラベクト®最大の特徴は12週間にわたる効果持続性(競合製品は1か月程度)
- MAH※1社とのフルララネルの長期供給契約を延長、新規動物用医薬品創出へ向けた共同研究開発を開始(2025年4月11日ニュースリリース)

1. フルララネル(有効成分)

- 2. ブラベクト® 外部寄生虫薬 (犬・猫用)
- 3. ブラベクト® 内外部寄生虫薬 (犬・猫用)
- 4. エグゾルト® (鶏・牛・羊用)



1. フルララネル(Fluralaner)	2. ブラベクト® (BRAVECTO®) 外部寄生虫薬	3. ブラベクト® (BRAVECTO®) 内外部寄生虫薬
<ul style="list-style-type: none"> ■ ブラベクト®・エグゾルト®の有効成分。当社がMAH社に供給 ■ これまでのペット用外部寄生虫薬とは異なる新たな作用機序を有している ■ 化合物特許 <ul style="list-style-type: none"> ● 2025年3月に終了するが、多数の国で延長制度あり ● UK、ドイツ、フランス等一部欧州諸国では、2029年2月まで延長済み、米国は2027年6月まで延長済み 	<ul style="list-style-type: none"> ■ MAH社が開発したペット用外部寄生虫薬。犬・猫のノミ、マダニの主要種に対し即効性に優れる ■ 通常1か月毎に投薬する既存製品より殺虫効果の持続性が長く、12週間※2にわたって持続する ■ 犬向けチュアブルタブレット(経口投与製剤) <ul style="list-style-type: none"> ● 2014年4月欧州、以降米国、日本等上市 ● 2020年7月1か月剤(子犬向け)米国上市 ■ 犬、猫向けスポットオン製品(経皮投与製剤) <ul style="list-style-type: none"> ● 2016年7月欧州、以降米国、日本等上市 ■ 犬向け注射剤 (BRAVECTO® Quantum) <ul style="list-style-type: none"> ● 12か月※3の効果持続性 ● 2024年6月豪州、以降欧州等上市 	<ul style="list-style-type: none"> ■ BRAVECTO® Plus <ul style="list-style-type: none"> ● 猫向けスポットオン合剤 ● 2018年7月欧州、以降米国、日本等上市 ■ BRAVECTO® TriUNO <ul style="list-style-type: none"> ● 犬向けチュアブルタブレット(3種合剤) ● 1か月の効果持続性 ● 2024年10月欧州、中南米にて承認
		4. エグゾルト® (EXZOLT®)
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 鶏向けワクモ駆除剤(飲水投与) <ul style="list-style-type: none"> ● 2017年欧州、以降韓国、中東、日本等上市 ■ 牛向け 2022年ブラジル、以降メキシコ上市 ■ 羊向け 2023年豪州、NZ上市

※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称 ※2 クリイロコイタマダニは8週間 ※3 クリイロコイタマダニは11か月

続きまして 32 ページに飛びます。

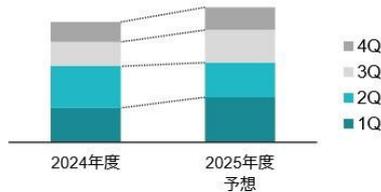
動物用医薬品原薬、フルララネルにつきましては先ほど社長の八木から少しコメントございましたが、上から三つ目の箇条書きにございますように、MAH社とのフルララネルに関します長期の供給契約の延長、また新規動物用医薬品創出に向けた共同研究開発を開始のリリースを4月11日にしております。

詳細は非開示でございますが、私どもとしましては、これも今後の動物用医薬品分野におきまして、さらなる成長を目指す礎と考えております。

■ 当社のフルララネル売上高の構成

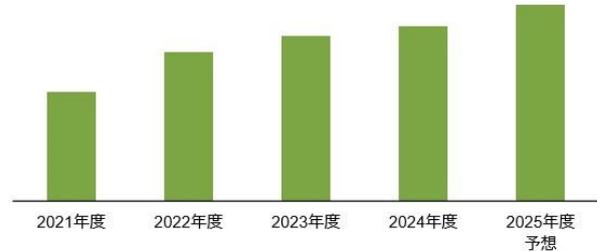
MAH^{※1}社へのフルララネル販売 + MAH社からのランニングロイヤリティ(RR)

■ 2024～2025年度 四半期別売上高推移 (RR収入含む)



MAH社のブラバクト・エグゾルト販売トレンドにより、当社のフルララネル売上高は上期が厚くなる傾向にある

■ 2021～2025年度 売上高推移 (RR収入含む)



- ・2022年度は、2021年度からの出荷後ろ倒しと円安影響により大幅増収。実績為替レートは136円/ドル
- ・2023年度の実績為替レートは145円/ドル
- ・2024年度の実績為替レートは153円/ドル
- ・2025年度は、2024年度からの出荷後ろ倒しにより大幅増収。想定為替レートは145円/ドル

■ ブラバクト®の拡大に向けたMAH社の開発状況

フルララネルを有効成分とするペット向けの新たな内外寄生虫薬や、既存製品の登録国数の拡大に向けMAH社が開発中

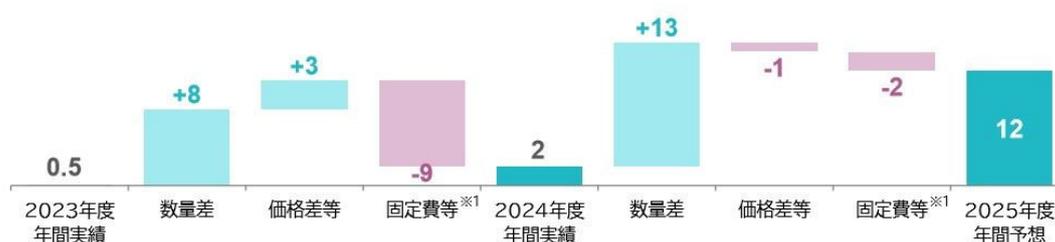
※1 米国メルク社のアニマルヘルス事業部門、MSD Animal Health 社の略称

33 ページでございます。

右の緑色の棒グラフでは、2021年度実績から2025年度予想までの売上高をお示ししております。フルララネルはロイヤリティ収入が入っておりますけれども、25年度の為替レートにつきましては1ドル145円と設定しております。

- 2024年度は、環境化学品や高純度硫酸を中心とした数量増加の一方、固定費等増加もあり小幅な増益にとどまる
- 2024年度にファインケミカル事業の減損を実施(特別損失28億円計上)
- 2025年度は、高純度硫酸など多数製品での数量増加に加え、ファインケミカル事業の減損による固定費減少(6億円)もあり増収増益を見込む

■ 営業利益増減分析 (億円)



※1 固定費等には在庫変動影響を含む。2025年度予想にはファインケミカル減損による固定費減少を含む。

続きまして化学品でございます。36 ページにまいります。

ここは営業利益の増減分析でございます。先ほどの機能性材料と同様に2023年実績、2024年実績、2025年度予想の3年にわたって解析をしております。2024年度につきましては環境化学品や高純度硫酸を中心とした数量増加の一方、固定費等の増加もあり、小幅な増益にとどまっております。

また2024年度にはファインケミカル事業の減損28億円を実施しまして、これは先ほど申し上げたとおりでございます。

2025年度には高純度硫酸など多数の製品での数量増加に加え、ファインケミカル事業の減損による固定費減少、これによる今年度分の固定費減少6億円を含みまして、セグメント合計では増収増益を見込んでおります。

(億円)

	2023年度 実績					2024年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	179	96	81	177	356	179	102	97	199	378	0	+6	+16	+22	+22
ファインケミカル	60	30	26	56	116	63	34	32	66	129	+3	+4	+6	+10	+13
基礎化学品	119	66	55	121	240	116	68	65	133	249	-3	+2	+10	+12	+9
営業利益	-1	4	-3	1	0	-4	5	1	6	2	-3	+1	+4	+5	+2

固定費等 【下期】増加4億円 【年間】増加9億円

【下期】増収・増益

ファインケミカルは、環境化学品やファインオキシコールを中心に増収。固定費等増加も、増益
 基礎化学品は、23年度の能登半島地震からの反動増で尿素・アドブルー®や硝酸製品などが増収。固定費等増加も、増益

【年間】増収・増益

ファインケミカルは、環境化学品やファインオキシコール、テビック一般を中心に増収。固定費等増加も、増益
 基礎化学品は、高純度硫酸好調(半導体需要増)により増収となるも、原燃料高や固定費等増加により、減益

37 ページは 2024 年度の前年同期比をお示ししております。後ほどご確認ください。

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	89	90	179	199	378	94	97	191	210	401	+5	+7	+12	+11	+23
ファインケミカル	31	32	63	66	129	31	33	64	66	130	0	+1	+1	0	+1
基礎化学品	58	58	116	133	249	63	64	127	144	271	+5	+6	+11	+11	+22
営業利益	7	-11	-4	6	2	8	-6	2	10	12	+1	+5	+6	+4	+10

固定費等【年間】増加2億円

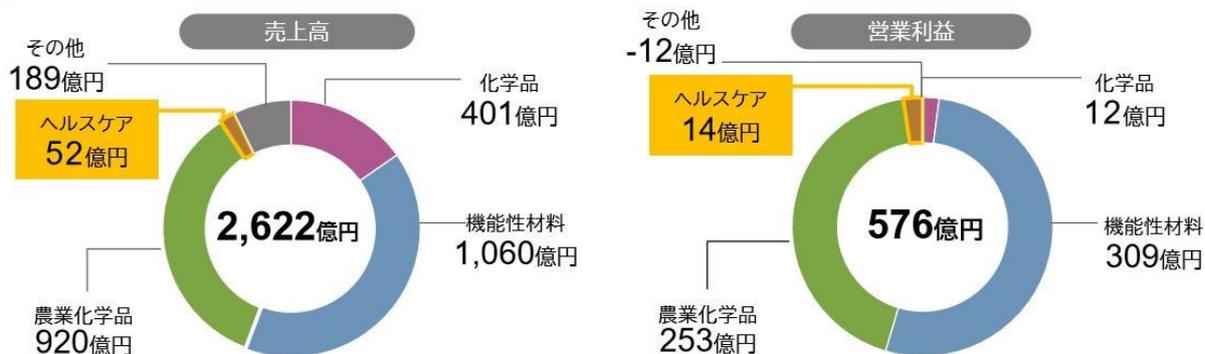
【年間】増収・増益

ファインケミカルは、環境化学品増収もテピック一般減収により、売上高はほぼ横ばい。中国競合品の影響による販売価格下落(減益要因)を、2024年度末の減損計上による固定費減少によって相殺し、利益横ばい

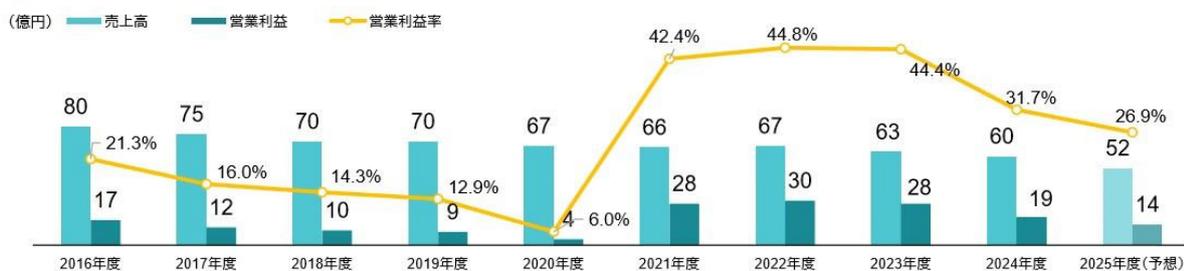
基礎化学品は、高純度硫酸(半導体需要増)や尿素・アドブルー®を中心とした数量増加、価格上昇により増収。固定費等増加も、増益

38 ページは 2025 年度予想の前年同期比でして、ここも後ほどご確認いただければと思います。

2025年度セグメント別業績予想※1



ヘルスケアセグメント業績推移※1・2



※1 2025年度より新方式セグメント別営業利益(p62参照) ※2 2022年4月に組織改定を実施。2016~2020年度実績は旧セグメント区分

最後にヘルスケアセグメント、40ページでございます。

この40ページの黄色い折れ線グラフの営業利益率を見ていただきますと、ここ近年、減益基調が続いているものの、引き続き営業利益率の水準自体としては相対的に高いものを維持していると考えております。

(億円)

	2023年度 実績					2024年度 実績					前年同期比				
	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間	上期	3Q	4Q	下期	年間
売上高	35	13	15	28	63	33	11	16	27	60	-2	-2	+1	-1	-3
ヘルスケア	13	6	4	10	23	8	5	5	10	18	-5	-1	+1	0	-5
ファインテック	23	7	10	17	40	25	6	11	17	42	+2	-1	+1	0	+2
営業利益	18	5	5	10	28	13	3	3	6	19	-5	-2	-2	-4	-9
ヘルスケア	6	2	2	3	9	1	1	2	3	4	-5	-1	0	0	-5
ファインテック	12	3	4	7	19	11	2	2	4	15	-1	-1	-2	-3	-4

※ 億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合算値が合わない場合がある

【下期】減収・減益

ファインテック固定費等増加により減益

【年間】減収・減益

ヘルスケア減収(リバロ国内・輸出とも減収、国内での長期収載品の選定療養制度の影響あり)、ファインテック固定費等増加により減益

| 42

続きまして 42 ページに飛びます。

2024 年度実績の前年同期比は 9 億円の減益でございます。特にヘルスケアのリバロにつきまして、国内での長期収載品の選定療養制度が 2024 年度下期から始まった影響も出ております。またファインテックの一部固定費等の増加もございました。

(億円)

	2024年度 実績					2025年度 予想					前年同期比				
	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間	1Q	2Q	上期	下期	年間
売上高	15	18	33	27	60	15	11	26	26	52	0	-7	-7	-1	-8
ヘルスケア	3	5	8	10	18	5	4	9	9	18	+2	-1	+1	-1	0
ファインテック	12	13	25	17	42	11	6	17	17	34	-1	-7	-8	0	-8
営業利益	6	7	13	6	19	4	1	5	9	14	-2	-6	-8	+3	-5
ヘルスケア	0	1	1	3	4	1	0	1	2	3	+1	-1	0	-1	-1
ファインテック	6	5	11	4	15	3	0	3	8	11	-3	-5	-8	+4	-4

※1 億円未満を四捨五入して表示しており、これにより合算値が合わない場合がある

【年間】減収・減益

リパロ減収(国内での長期収載品の選定療養制度の影響あり)、ファインテック減収(顧客在庫調整の影響あり)

| 43

43 ページは 2025 年度予想でございまして、前年と比較しますと同じく減収減益ということになりますが、先ほどの 2024 年度と同じような理由でございします。

2024年度実績と2027年度中計(2025年5月発表)の差異

(億円)

		2024年度 実績(A)	2027年度 中計(B)	差異 (B)-(A)	差異要因
化学品	売上高	378	437	+59	ファインケミカル 増収(+10%) 環境化学品、テピック(電材) 基礎化学品 増収(+18%) 高純度硫酸、硝酸製品、尿素・アドブルー®
	営業利益	2	24	+22	ファインケミカル・基礎化学品 増益 固定費等増加も、増収により増益
機能性材料	売上高	1,001	1,224	+223	ディスプレイ 増収(+3%) その他ディスプレイ材料、VA 半導体 増収(+38%) 多層材料、ARC®、三次元実装材料 無機コロイド 増収(+23%) スノーテックス、オイル&ガス材料
	営業利益	290	342	+52	半導体・無機コロイド 増益 固定費等増加も、半導体や無機コロイド増収により増益
農業化学品	売上高	862	975	+113	農業 増収(+16%) ヘルダー、グレーシア、タルガ 動物薬 増収(+2%)
	営業利益	256	259	+3	売上高増収も、固定費等大幅増加により小幅増益
ヘルスケア	売上高	60	64	+4	ヘルスケア 減収(-19%) リバロ(輸出・国内) ファインテック 増収(+18%) ジェネリック原薬、新製品
	営業利益	19	24	+5	
卸売・ その他・ 調整額	売上高	213	230	+17	卸売・その他 増収
	営業利益	1	1	0	
合計	売上高	2,514	2,930	+416	
	営業利益	568	650	+82	

※1 2027年度中計(2025年5月発表)は新方式セグメント営業利益(p62参照)

| 46

最後に 46 ページ、中計につきまして先ほど数字はご説明しましたが、中身の差異要因につきまして、2024 年度実績対 2027 年度中計の差異についてセグメントごとに売上高と営業利益にて解説をしておりますので後ほどご確認ください。

2024年度 実績と中計(2022年5月発表)の差異

(億円)

		2024年度 中計(A)	2024年度 実績(B)	差異 (B)-(A)	差異要因
化学品	売上高	376	378	+2	ファインケミカル 下ぶれ(-10%) テビック(一般、電材) 基礎化学品 上ぶれ(+7%) 尿素・アドブルー [®] 、硝酸製品
	営業利益	35	2	-33	ファインケミカル・基礎化学品下ぶれ 固定費等上ぶれ、原燃料コスト上ぶれ
機能性材料	売上高	1,029	1,001	-28	ディ스플레이 下ぶれ(-11%) ラビングIPS、VA、その他ディスプレイ材料 半導体 下ぶれ(-1%) ARC [®] 、多層材料 無機コロイド 上ぶれ(+17%) スノーテックス、オルガノゾル・モノマーゾル
	営業利益	321	290	-31	ディスプレイ・半導体下ぶれ 市場調整により売上高下ぶれ(ディスプレイ・半導体)
農業化学品	売上高	778	862	+84	農薬 上ぶれ(+10%) グレーシア、パーミット 動物薬 上ぶれ(+14%)
	営業利益	217	256	+39	売上高上ぶれ
ヘルスケア	売上高	72	60	-12	ヘルスケア 上ぶれ(+15%) リバロ輸出 ファインテック 下ぶれ(-26%) ジェネリック原薬、新製品
	営業利益	21	19	-2	
卸売・ その他・ 調整額	売上高	295	213	-82	調整額 下ぶれ
	営業利益	-9	1	+10	卸売 上ぶれ+15、その他国内子会社 下ぶれ-4
合計	売上高	2,550	2,514	-36	
	営業利益	585	568	-17	

| 47

また次の47ページは2022年5月、3年前に発表いたしました2024年度中計と実績との比較となっております。

2027年度 中計(2025年5月発表)と旧中計(2022年5月発表)の差異

(億円)

		2027年度 旧中計(A)	2027年度 中計(B)	差異 (B)-(A)	差異要因
化学品	売上高	401	437	+36	ファインケミカル 下ぶれ(-13%) テビック(一般、電材) 基礎化学品 上ぶれ(+24%) 高純度硫酸、尿素・アドブルー [®] 、硝酸製品
	営業利益	39	24	-15	ファインケミカル・基礎化学品下ぶれ 固定費等上ぶれ、原燃料コスト上ぶれ
機能性材料	売上高	1,172	1,224	+52	ディ스플레이 下ぶれ(-9%) その他ディスプレイ材料 半導体 上ぶれ(+8%) 多層材料、三次元実装材料、ARC [®] 無機コロイド 上ぶれ(+33%) スノーテックス、オイル&ガス材料
	営業利益	380	342	-38	ディスプレイ・半導体下ぶれ 固定費等上ぶれ
農業化学品	売上高	823	975	+152	農薬 上ぶれ(+16%) グレーシア、タルガ 動物薬 上ぶれ(+28%)
	営業利益	210	259	+49	売上高上ぶれ
ヘルスケア	売上高	115	64	-51	ヘルスケア 下ぶれ(-50%) 新製品 ファインテック 下ぶれ(-42%) ジェネリック原薬、新製品
	営業利益	43	24	-19	
卸売・ その他・ 調整額	売上高	339	230	-109	調整額 下ぶれ
	営業利益	-2	1	+3	卸売 上ぶれ+6、その他国内子会社 上ぶれ+7、調整額 下ぶれ-10(うち、企画本部-3)
合計	売上高	2,850	2,930	+80	
	営業利益	670	650	-20	

※1 2027年度中計(2025年5月発表)は新方式セグメント営業利益(p62参照)

| 48

それから 48 ページ、2027 年度の数字につきまして 3 年前の旧中計と今回発表の新中計の差異をお示ししておりますので、後ほどご確認いただければと思います。

私からは以上になります。

質疑応答

<質問者 1>

Q：農業化学品について、2027 年度にかけてのトップラインの伸びに関しては 2024 年度に上市したベルダーの寄与が大きいと思いますが、それ以外の既存剤ではどのように成長を見ているのか教えてください。

A：既存剤の中での伸びが期待できる品目としては、グレースシア、タルガ、ラウンドアップ、ライメイがございます。ライメイについては特にヨーロッパで旺盛な需要が見られることから、来年以降も引き続き伸びが期待できると考えています。

Q：2027 年度までの中期経営計画ではあまり影響はないかもしれませんが、フルララネルの特許切れ後について、何か減収をオフセットできるものがあるのか、教えてください。

A：特許が切れることは避けられないものの、その中で MAH 社との協議を積み重ねて原薬数量の拡大や、共同研究開発でできるだけ早期の新製品投入を進めるべく、取り組んでおります。

<質問者 2>

Q：農業化学品について、中期経営計画の 3 カ年において、ベルダーや NC-656 といった新剤はどの程度寄与してくるのでしょうか。

A：今回の中期経営計画の 2027 年度数値の中に入っている新剤の売上は、比較的少ないです。ベルダーの登録が当初より 1 年遅れたというような影響もありまして限定的な数字に留めています。

そのため若干トップラインが緩やかな伸びになっておりますけれども、既存剤の底堅い販売を維持することによって、中計目標を達成したいと考えています。

Q：中期経営計画の経営指標に関して、売上高営業利益率が 20% 以上、ROE が 18% 以上という目標を立てられています。既に高い水準ではありますが、これをさらにもう一段上げていくための施策について何か考えがあれば教えてください。

A：売上高営業利益率や ROE は既にかかなり高い水準を維持していますが、一段上を目指すのであれば、例えば M&A を含めた戦略投資が考えられます。従来も実施してきましたが、従来以上に、

オーガニックな成長だけではなくて、インオーガニックな成長を推し進めるための様々な取り組み、あるいは検討を前向きに進めていきたいと考えております。

また、利益率を高めるために固定費を削減するという考え方もありますが、今回の中期経営計画の中では、かなり領域を絞った上で比較的大胆に、特にオーガニックな成長のための研究開発あるいは設備投資へ重点的に資源を配分しております。ここについては削減ではなく、むしろ必要なものには資金を投入していくという方針で、これをやりきった上で2030年度に向けて成長を加速させたいと考えております。

Q：分かりました。ちなみに、インオーガニックな成長に関しては、対象領域としてはやはり機能性材料と農業化学品になりますか。

A：機能性材料と農業化学品に加えて、企画本部で検討しているような新しい材料領域も対象になると思います。

<質問者3>

Q：中期経営計画における化学品の収益性改善について教えてください。テピックの生産能力半減とありますが、これはいつ頃をめどに実施されるのでしょうか。

A：テピック製造設備の半減については、既に2024年度の下期から実施をしております。

Q：わかりました。テピックの生産能力半減に伴い、テピックの原料として使用されるシアヌル酸の製造バランスについてはどのように考えていますか。

A：テピックの生産量が減りますと当然シアヌル酸の生産量が減りますが、全体のアンモニア系製品のバランスは崩れていませんので、特に問題はないという認識です。

Q：加えて、外部製造委託の活用、不採算製品の販売中止といった記載もありますが具体的にどういった製品を対象とする予定でしょうか。

A：外部製造委託の活用と不採算製品の販売中止については、相手先もございまして、申し訳ございませんが具体的な製品名の開示は控えさせていただきますが、着実に進めて参ります。

Q：また化学品に関連して、既に収束されたと思いますが4月頭に硝酸のプラントトラブルが発生しましたが、こちらの影響は今年度の計画に織り込んでいますか。

A：硝酸のプラントトラブルについてご迷惑をおかけしましたが、4月末に製造再開しました。業績への影響はまだ試算中で今年度の計画にも織り込まれていませんが、それほど大きな金額ではないと想定をしております。

Q：化学品の収益性改善に関して、2025～2030 年度累計で 40～50 億円の固定費・変動費の減少を見込まれていますが、この内容をもう少し解説いただけますか。

A：：40～50 億円の固定費・変動費減少の中に、減損による減価償却費の減少分が入っております。つまり、減損していなければ生じていた減価償却費が減損により発生しなくなりますので、これを含めまして 40～50 億円ということでございます。なお、2025 年度は決算説明会資料に記載のとおり、この減価償却費の減少が 6 億円あります。

そのほかでは、テピックの製造設備の生産能力半減や外部への製造委託などにより、費用削減を見込んでいます。

Q：研究開発の考え方について、近年、売上高研究開発費比率が 7%台で推移することが多かったところから、2025 年度は 8.5%にまで上げられる見通しになっています。新中期経営計画での研究開発費の金額を見ても R&D への投資が増えているように見えます。

先ほど M&A のお話もありましたが、自前にこだわらないのであれば自社の R&D 投資を抑えて M&A にお金を回すのも一つの考え方だと思いますが、R&D 投資を増やしている背景を教えてください。

A：R&D 投資の増加に関しては、機能性材料、特に半導体材料関連が相当なウェイトを占めています。研究設備や人員も含め、半導体には相当力を入れて資源投入していくということになります。

オーガニックとインオーガニックの資源配分に関しては、当社としてはまず、オーガニックでできるところにはきちんと必要な分の資源投入をした上で、チャンスがあれば外部からの事業の買収等による事業強化や、あるいは新しい領域への参入を考えていくという方針です。

Q：加えて、中期経営計画資料の中で新製品のリストを載っていますが、特に確度の高そうな期待されている製品について教えてください。

A：有望な新製品に関して、特に企画本部の製品の中から申し上げたいと思います。

企画本部は今年の 4 月にグループ編成を変えまして、特に集中する分野というのを決めています。この中でも特に SA 事業化グループ（SA はスラリー添加剤の略）では、既に車載用途で採用をいただいています。車載用途のため、拡大するまでには少し時間がかかりますけれども、期待値が大きいという認識です。

そのほか、光配線材料や放熱材料に関しましても、現在サーバーや高性能半導体チップを用いた電子機器で消費電力や放熱の課題があり、新しい材料の採用機会があるという認識です。従来からこ

これらの材料には取り組んでいましたけれども、更に注力して実需化を早期に達成すべく進めています。

<質問者 4>

Q：中期経営計画のキャッシュアロケーションについて、M&Aの資金は基本的にデット調達という話でしたが、もしデットの調達余力を超えるような案件があった場合には、短期的に株主還元の方針を維持できないということもあり得るのでしょうか。あるいは、現時点ではそういった案件はなさそうなのか。

A：戦略投資に関しては具体的な数字の開示はできませんが、十分デットの調達範囲内だろうと考えております。

Q：中期経営計画の設備投資については半導体材料が中心と理解しましたが、NCKの能力増強を行ったばかりでしたので、次の能力増強の必要性が具体的に高まっているのかどうか教えてください。

A：半導体材料の設備投資に関しては、今後も2027年度までの3年間で+38%の売上成長を見込んでおりますので、今後どこかのタイミングで一層の能力増強が必要になるだろうと考えております。

これはまだ正式に意思決定をしたわけではありませんが、将来的なこの中期経営計画の3年間の中での一つの可能性ということで織り込んでいます。

Q：フルララネルに関して、メルクが原薬のコスト増を理由の一つに挙げて利益を下方修正していると思うのですが、フルララネルは関税の文脈の中では何かしら影響がないのか教えてください。

A：フルララネルの関税影響に関して、ブラベクトはアメリカが一番大きな市場ではありますが、当社のフルララネルの販売先はヨーロッパになります。ヨーロッパで加工したあとアメリカへ輸送することになりますが、こちらでの影響については現在もMAH社にて精査中として、情報を密に交換しながら影響額の度合いを見極めているところでございます。

Q：直近、バイエルのラウンドアップの訴訟の話がまた出てきているように思いますが、これまでラウンドアップの安全性については繰り返し情報発信をさせていただいていますが、改めてその辺りリスクが高まっていないか、コメントいただけますか。

A： ラウンドアップに関して、基本的には、訴訟に対するわれわれの立場やラウンドアップの安全性に関しては X や YouTube を通じて積極的に情報発信しております。

現在、アメリカ、オーストラリアで訴訟の結果等も出てきておりますけれども、引き続き国内の生産者の支持をいただいております特に大きな影響はないと見ております。X で非常に批判的な投稿をされる方もおりますけれども、そういった方々に対しても、全く根拠のない、科学的立場に立ってないような見解が出てきたものに対しては、法的な措置を講じていくというような態度で臨んでおります。

そういったことも含めて、生産者の方々には非常に好意的に受け止められていただいているという理解でございますので、ラウンドアップの販売に関して影響はないというのが当社の見方です。

以上